

2021 年度

情報公開

- 大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書
- 実務経験のある教員等による授業科目
- 客観的な指標の算出方法
- 卒業の認定に関する方針
- シラバス
- 学校関係者評価

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の 単位数又は授 業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配 置 困 難
医療専門課程	看護学科		85 単位	9 単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校 HP にて公開 www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園 HP にて公開 www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
新門 正広 (非常勤)	新門歯科医院 院長 (H10. 4. 1～)	R2. 2. 1～ R3. 7. 14	民間の視点からの適 正な学校運営の指 導・助言
林 康樹 (非常勤)	社会福祉法人長命荘 事務長 (H15. 9. 1～)	同 上	同 上
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
3月	年度末の授業計画の見直し 教務主任が教育課程の編成、教育計画・授業計画を立案 各授業の担当教員がシラバスを作成
8月	教務会において主に前期分の授業計画(シラバス)の評価 「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検 授業年次・時期の検討
翌2月	教務会において主に後期分の授業計画(シラバス)の評価 「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検 授業年次・時期の検討
3月	教務で取りまとめ、学生便覧に授業概要を掲載
4月	新入生に授業概要を配布
4月～	講義開始時、授業計画を配布
授業計画書の 公表方法	学生便覧に掲載・配布 学校HPにて公開 www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
<p>単位認定は、講義、臨地実習等に必要な時間の取得状況と授業計画に則った学修成果の評価(試験、学習報告等)により行っている。</p> <p>授業科目の評価は試験やレポート等で行い、評価を点数換算する。 優(80点以上)、良(70点から79点)、可(60点から69点)、不可(60点未満) 可以上を合格とし、合格者には所定の授業科目の単位認定を行う。</p> <p>大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者については、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>履修科目の成績評価を点数化、全科目の合計点の平均を算出（100点満点で点数化）し、順位付けする 学生には、自らの得点と順位を記したものを配布</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>学校 HP にて公開 www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>教育理念に基づき、以下の卒業時の到達目標を身につけた者に卒業を認定する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人間を理解し、生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 命を尊ぶことができる。 (2) 自分自身を大切にすることができる。 (3) 自己および他者を、ありのまま受止めることができる。 2) より良い人間関係を築く能力を養う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 豊かな表現力を身につけることができる。 (2) 対象との間に信頼関係を築くことができる。 3) 看護の対象である人間を統合的に理解する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。 (2) 対象者を発達段階から捉えることができる。 (3) 対象者をあらゆる健康の段階から捉えることができる。 4) 看護の知識と技術を身につけ、さらにこれを活用し得る能力を養う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別的な看護が実践できる。 (2) 科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 (3) 発展的思考を身につけることができる。 5) 保健医療福祉チームの一員として看護を実践し、協働活動できる能力を養う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会の変化に関心を持ち、看護に対するニーズを理解できる。 (2) 保健医療福祉領域の中で看護師の役割を理解できる。 (3) 他職種との協働活動ができる。 6) 自己の看護観を育み、専門職業人としての態度を養う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護に対する見方、考え方を明らかにできる。 (2) 看護倫理、法的基準に基づき看護が実践できる。 (3) 主体的に自己の課題を見出し、継続して研究する姿勢を身につける。 <p>併せて、講義、臨地実習等に必要な出席時間数と授業科目の評価により、単位認定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 出席時間数が授業時間数の3分の2以上 (2) 授業科目及び臨地実習の評価 優（80点以上）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（60点未満） 可以上を合格とし、合格者に授業科目の履修認定を行う (3) 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者は、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる 出席日数の3分の2以上を満たし、すべての授業科目の単位認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て卒業を認定する。 	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>学校 HP にて公開 www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

学校名	阪奈中央看護専門学校
設置者名	学校法人栗岡学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
収支計算書又は損益計算書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
財産目録	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
事業報告書	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html
監事による監査報告（書）	www.kuriokagakuen.ac.jp/johokokai.html

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
医療		看護専門課程	看護学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類		
				講義	実習	
3年	昼	3090時間/98単位		2055時間/75単位	1035時間/23単位	
		3090時間/98単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち 留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人		123人	0人	11人	48人	59人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要）	
3月	年度末の授業計画の見直し 教務主任が教育課程の編成、教育計画・授業計画を立案 各授業の担当教員がシラバスを作成
8月	教務会において主に前期分の授業計画（シラバス）の評価 「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検 授業年次・時期の検討
翌2月	教務会において主に後期分の授業計画（シラバス）の評価 「学生便覧」の「科目目標」との整合性の点検 授業年次・時期の検討
3月	教務で取りまとめ、学生便覧に授業概要を掲載
4月	新入生に授業概要を配布
4月～	講義開始時、授業計画を配布

成績評価の基準・方法

(概要)

単位認定は、講義、臨地実習等に必要な時間の取得状況と授業計画に則った学修成果の評価（試験、学習報告等）により行っている。

授業科目の評価は試験やレポート等で行い、評価を点数換算する。

優（80点以上）、良（70点から79点）、可（60点から69点）、不可（60点未満）

可以上を合格とし、合格者には所定の授業科目の単位認定を行う。

大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者については、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる。

卒業・進級の認定基準

(概要)

教育理念に基づき、以下の卒業時の到達目標を身につけた者に卒業を認定する

1) 人間を理解し、生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養う。

(1) 命を尊ぶことができる。

(2) 自分自身を大切にすることができる。

(3) 自己および他者を、ありのまま受止めることができる。

2) より良い人間関係を築く能力を養う。

(1) 豊かな表現力を身につけることができる。

(2) 対象との間に信頼関係を築くことができる。

3) 看護の対象である人間を統合的に理解する。

(1) 対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。

(2) 対象者を発達段階から捉えることができる。

(3) 対象者をあらゆる健康の段階から捉えることができる。

4) 看護の知識と技術を身につけ、さらにこれを活用し得る能力を養う。

(1) 個別的な看護が実践できる。

(2) 科学的根拠に基づいた看護を実践できる。

(3) 発展的思考を身につけることができる。

5) 保健医療福祉チームの一員として看護を実践し、協働活動できる能力を養う。

(1) 社会の変化に関心を持ち、看護に対するニーズを理解できる。

(2) 保健医療福祉領域の中で看護師の役割を理解できる。

(3) 他職種との協働活動ができる。

6) 自己の看護観を育み、専門職業人としての態度を養う。

(1) 看護に対する見方、考え方を明らかにできる。

(2) 看護倫理、法的基準に基づき看護が実践できる。

(3) 主体的に自己の課題を見出し、継続して研究する姿勢を身につける。

併せて、講義、臨地実習等に必要な出席時間数と授業科目の評価により、単位認定を行う。

(1) 出席時間数が授業時間数の3分の2以上

(2) 授業科目及び臨地実習の評価

優（80点以上）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（60点未満）

可以上を合格とし、合格者に授業科目の履修認定を行う

(3) 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者は、既修得した単位が当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる

出席日数の3分の2以上を満たし、すべての授業科目の単位認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て卒業を認定する。

学修支援等
(概要) 担任が面談を実施、生活状況・学習状況を把握した上で指導している。 1年次より、カリキュラム外で国家試験対策を講じている。 学生・教員で国家試験対策委員を組織し、学年を超えた相互学習を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
39人 (100%)	0人 (0%)	38人 (97.4%)	1人 (2.6%)
(主な就職、業界等) 病院・診療所			
(就職指導内容) 就職セミナーの開催、就職活動に向けたマナー研修の実施			
(主な学修成果(資格・検定等)) 看護師国家試験受験資格取得			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
124人	2人	1.6%
(中途退学の主な理由) 一身上の都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) 専門心理師によるカウンセリング		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
看護学科	250,000円	450,000円	350,000円	その他の内訳 施設設備充実費：250,000円 実習費：100,000円
修学支援(任意記載事項) 診療費補助制度				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
学校 HP にて公開 www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
<p>自己評価結果の客観性・透明性を高めるため、学外関係者による「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主な評価項目：教育、施設、学生サービスなど ○評価委員の定数：5名以上 ○評価委員の選出区分：卒業生、企業関係者、高校関係者、地域住民、教育関連有識者など ○評価結果の活用方法：学校運営等の改善に活用する。評価結果ならびに改善策と実施の時期等についてはホームページで随時公表する。 		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人和幸会 阪奈中央病院 院長 米澤 泰司	令和3年1月1日～ 令和3年12月31日	企業関係者
奈良県専修学校各種学校連合会 会長 大原 敏敬	令和2年1月1日～ 令和3年12月31日	教育関連有識者
学校法人興国学園 興国高等学校 副校長 宮野 博	同 上	高校関係者
医療法人和幸会パークヒルズ田原苑 看護部長 前原 園代	同 上	地域住民
医療法人和幸会阪奈中央病院リハビリ部 部長 川原 勲	同 上	企業関係者
医療法人和幸会阪奈サナトリウム 師長 酒井 真紀	同 上	卒業生
医療法人和幸会阪奈中央病院 谷川 優香	同 上	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 学校 HP にて公開 www.hanna-kango.ac.jp/johokokai.html		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

www.hanna-kango.ac.jp
--

看護学科教育課程

教育内容		授業科目	単位数	時間数	実務経験	教育内容		授業科目	単位数	時間数	実務経験
基礎分野	科学的思考の基盤	国語表現法	1	15		専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論・保健論	1	30	有
		論理的思考	1	30				成人臨床看護論Ⅰ	1	30	有
		生活科学	1	30				成人臨床看護論Ⅱ	1	30	有
		情報科学	1	30				成人臨床看護論Ⅲ	1	30	有
	成人臨床看護論Ⅳ	1	30	有							
	人間と生活・社会の理解	哲学	1	30			老年看護学	老年看護学概論・保健論	1	30	有
		心理学	1	30				老年臨床看護論Ⅰ	1	30	有
		社会学	1	30				老年臨床看護論Ⅱ	1	30	有
		教育学	1	30				老年臨床看護論Ⅲ	1	15	有
		文化人類学	1	30			小児看護学	小児看護学概論・保健論	1	30	有
		生命倫理	1	15				小児臨床看護論Ⅰ	1	30	有
		人間関係論	1	30				小児臨床看護論Ⅱ	1	30	有
	英語	1	30		小児臨床看護論Ⅲ		1	15	有		
英会話	1	30		小計		13	360	0			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2	60	有	母性看護学	母性看護学概論・保健論	1	30	有	
		解剖生理学Ⅱ	2	60	有		母性臨床看護論Ⅰ	1	30	有	
		生化学	1	30	有		母性臨床看護論Ⅱ	1	30	有	
		栄養学	1	15	有		母性臨床看護論Ⅲ	1	15	有	
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30	有	精神看護学	精神看護学概論・保健論	1	30	有	
		病理学	1	30	有		精神臨床看護論Ⅰ	1	30	有	
		疾病論Ⅰ	1	30	有		精神臨床看護論Ⅱ	1	30	有	
		疾病論Ⅱ	1	30	有		精神臨床看護論Ⅲ	1	15	有	
		疾病論Ⅲ	1	30	有	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	2	90	有	
		疾病論Ⅳ	1	30	有		成人看護学実習Ⅱ	2	90	有	
		疾病論Ⅴ	1	30	有		成人看護学実習Ⅲ	2	90	有	
		疾病論Ⅵ	1	30	有		老年看護学実習Ⅰ	2	90	有	
	治療総論	1	30	有	老年看護学実習Ⅱ		2	90	有		
	薬理学	1	30	有	小児看護学実習		2	90	有		
	社会福祉論	2	30	有	母性看護学実習		2	90	有		
	保健科学	2	30	有	精神看護学実習	2	90	有			
	健康支援と社会保障制度	運動科学	1	30	有	小計		38	1320	38	
関係法規		1	30	有	在宅看護論	在宅看護概論	1	30	有		
小計		22	585	22		在宅看護実践論Ⅰ	1	30	有		
専門分野Ⅰ		基礎看護学	看護学概論	1		30	有	在宅看護実践論Ⅱ	1	30	有
	基礎看護技術論Ⅰ		1	30		有	在宅看護実践論Ⅲ	1	15	有	
	基礎看護技術論Ⅱ		1	30	有	看護の統合と実践	看護の統合と実践概論	1	30	有	
	基礎看護技術論Ⅲ		1	30	有		看護の統合と実践論Ⅰ	1	30	有	
	生活援助技術論Ⅰ		1	30	有		看護の統合と実践論Ⅱ	1	30	有	
	生活援助技術論Ⅱ		1	30	有		看護の統合と実践論Ⅲ	1	15	有	
	生活援助技術論Ⅲ		1	30	有	臨地実習	在宅看護論実習	2	90	有	
	診療援助技術論		1	30	有		看護の統合と実践実習	2	90	有	
	臨床看護総論		1	30	有	小計		12	390	12	
	看護研究概論		1	30	有	総計	小計		98	3090	85
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	有		小計		13	435	13
基礎看護学実習Ⅱ		2	90	有							
小計		13	435	13							

(3) 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

令和2年度

客観的な指標の算出方法
履修科目の成績評価を点数化、全科目の合計点の平均を算出（100点満点で点数化）し、順位付けする。学生には、自らの得点と順位を記したものを配布

学科名	看護学科	1学年	学生数	40
成績の分布				
指標の数値	～70点	70.1～80点	80.1～90点	90.1～100点
人数	5	14	17	4
下位1/4に該当する人数	10人			
下位1/4に該当する指標の数値	75.0 点以下			

学科名	看護学科	2学年	学生数	43
成績の分布				
指標の数値	～70点	70.1～80点	80.1～90点	90.1～100点
人数	2	22	16	3
下位1/4に該当する人数	10人			
下位1/4に該当する指標の数値	74.6 点以下			

学科名	看護学科	3学年	学生数	40
成績の分布				
指標の数値	～70点	70.1～80点	80.1～90点	90.1～100点
人数	2	17	20	1
下位1/4に該当する人数	10人			
下位1/4に該当する指標の数値	76.7 点以下			

卒業の認定に関する方針について

教育理念に基づき、以下の卒業時の到達目標を身につけた者に卒業を認定する

- 1) 人間を理解し、生命の尊厳と個々の人格を尊重する態度を養う。
 - (1) 命を尊ぶことができる。
 - (2) 自分自身を大切にすることができる。
 - (3) 自己および他者を、ありのまま受止めることができる。
- 2) より良い人間関係を築く能力を養う。
 - (1) 豊かな表現力を身につけることができる。
 - (2) 対象との間に信頼関係を築くことができる。
- 3) 看護の対象である人間を統合的に理解する。
 - (1) 対象者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。
 - (2) 対象者を発達段階から捉えることができる。
 - (3) 対象者をあらゆる健康の段階から捉えることができる。
- 4) 看護の知識と技術を身につけ、さらにこれを活用し得る能力を養う。
 - (1) 個別的な看護が実践できる。
 - (2) 科学的根拠に基づいた看護を実践できる。
 - (3) 発展的思考を身につけることができる。
- 5) 保健医療福祉チームの一員として看護を実践し、協働活動できる能力を養う。
 - (1) 社会の変化に関心を持ち、看護に対するニーズを理解できる。
 - (2) 保健医療福祉領域の中で看護師の役割を理解できる。
 - (3) 他職種との協働活動ができる。
- 6) 自己の看護観を育み、専門職業人としての態度を養う。
 - (1) 看護に対する見方、考え方を明らかにできる。
 - (2) 看護倫理、法的基準に基づき看護が実践できる。
 - (3) 主体的に自己の課題を見出し、継続して研究する姿勢を身につける。

併せて、講義、臨地実習等に必要な出席時間数と授業科目の評価により、単位認定を行う。

- (1) 出席時間数が授業時間数の3分の2以上
- (2) 授業科目及び臨地実習の評価
優(80点以上)、良(70点~79点)、可(60点~69点)、不可(60点未満)
可以上を合格とし、合格者に授業科目の履修認定を行う
- (3) 大学、高等専門学校、養成施設等に在学していた者は、既修得した単位が
当該科目の認定要件を満たしていれば、単位の認定を受けることができる

出席日数の3分の2以上を満たし、すべての授業科目の単位認定を受けた者について、学校運営会議の議を経て卒業を認定する。

以上

授 業 科 目	国語表現法	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	鈴木 賢一郎
		次	前期	時 間	15 時間		

1. 到達目標

- 1) 日本語の構造や言葉の役割を知ることを通して、国語力をより確かなものにする。
- 2) 基本的な作文能力を養い、手紙などの実用的な文章から、論文まで書けるようにする。法の基本的知識が理解できる。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	三分節法について	講義	
2	レポートの構成について	講義	
3	基本的な文章構成	講義	
4	「主語述語の対応」と「呼応表現」	講義	
5	読点の打ち方、ケーススタディの書き方	講義	
6	手紙の書き方、封筒の書き方	講義	
7	文章の型、構成方法、原稿用紙の使い方	講義	
8	終講テスト	講義／試験	
使用テキスト： 特になし。随時プリント配布		参考書：	
評価の方法： 出席および授業時間内に課す小レポートによって評価する。			

授 業 科 目	論理的思考	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	大本 達也
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 論理的思考力及び論理的思考に基づいた表現力と読解力を養う。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	授業説明、チーム分け、テーマ決定、資料探し	講義	
2	チーム発表① 資料紹介①	講義・GW	
3	チーム発表② 資料紹介②	講義・GW	
4	チーム発表③ 資料紹介③	講義・GW	
5	チームミーティング 資料紹介準備	講義・GW	
6	チーム発表④ 資料紹介④	講義・GW	
7	発表準備	講義・GW	
8	発表会	講義・GW	
9	確認テスト・まとめレポートテスト	講義	
10	核問題①	講義	
11	核問題② グループ発表	講義・GW	
12	核問題③ グループ発表	講義・GW	
13	日本の核政策 小テスト	講義・GW	
14	日本の核政策 発表	講義・GW	
15	終講テスト	講義／試験	
使用テキスト： 特になし。随時プリント配布		参考書： 資料作成により配布する	
評価の方法： 出席点、数回の小レポート、期末レポートで評価し、試験はしない。			

授 業 科 目	生活科学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	中谷 年成
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 日常生活に関する様々な事項について、健康に影響する危険因子と対策について理解できる
- 2) 豊かな生活とライフスタイルを過去・現在・未来を思考し、生活観を培い看護実践への応用ができる

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	生活科学とは	講義	
2	エネルギー資源と生活	講義	
3	水と生活	講義	
4	環境と生活	講義	
5	情報・通信と生活	講義	
6	生命科学と生活①	講義	
7	生命科学と生活②	講義	
8	衣服材料と洗剤の安全性・衣服の管理	講義	
9	住まいと生活	講義	
10	安全な住まいと今後の問題点①	講義	
11	安全な住まいと今後の問題点②	講義	
12	安全な住まいと今後の問題点③	講義	
13	食生活と安全性	講義	
14	人間に課せられた今後の課題	講義	
15	まとめ	講義／試験	
使用テキスト： 藤城敏幸著「新編生活科学」東京教学社		参考書： 資料作成により配布する	
評価の方法： 出席状況、テスト、小レポート等			

授業科目	情報科学	年	2年次	単位	1単位	担当	浅居 孝彦
		次	後期	時間	30時間		

1. 到達目標

- 1) 情報科学の基礎理論を学ぶ。
- 2) 情報機器に関する基礎的な知識を身につける。
- 3) 看護の視点から情報を分析するための調査技法・統計的分析方法を学ぶ。
- 4) 看護に役立つ情報機器の操作方法を身につける。

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	Word 文書の作成	講義	
2	Word 文書の編集、表の作成	講義	
3	Excel データの入力・編集	講義	
4	Excel 数式・関数の入力	講義	
5	Excel データの集計①	講義	
6	Excel データの集計②	講義	
7	Excel グラフの作成	講義	
8	Excel データベースの利用	講義	
9	グループ発表の準備	講義・GW	
10	発表資料の作成	講義・GW	
11	発表の準備と仕上げ①	講義・GW	
12	発表の準備と仕上げ②	講義・GW	
13	プレゼンテーションの準備	講義・GW	
14	グループ発表	講義・GW	
15	グループ発表	講義・GW	
使用テキスト： 特になし		参考書： 資料作成により配布する	
評価の方法： 出席、提出物、発表によって評価する。			

授 業 科 目	哲学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	守津 隆
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 「人間とは何だろうか?」という問題を、いろいろな観点から考えられる。
2. 人間がいまだに大きな「謎」であることを考察できる。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	導入 諸学における哲学の位置、その対象と方法	講義	
2	確実な心理の基準 方法的懐疑とは何か	講義	
3	物心二元論的世界観の意義と問題	講義	
4	二元論的世界観と心身関係の難問	講義	
5	〈外見の体〉と〈内から感じる体〉の違いについて	講義	
6	メルロ＝ポンティの習慣的身体 クオリアとはなにか	講義	
7	自己とはなにか 見る自己と見られる自己	講義	
8	近代的自我と無意識の問題	講義	
9	近代的自我と日本的な“自己”	講義	
10	科学と哲学の関係 17世紀の科学革命	講義	
11	F.ベーコンの「知は力なり」と科学技術	講義	
12	自然の斉一性原理について	講義	
13	科学と技術の統合に関する復習	講義	
14	近代的世界観と科学について	講義	
15	終講試験	講義／試験	
使用テキスト： 毎回授業の始めに資料（プリント）を配布		参考書： 授業中に適宜紹介	
評価の方法： 毎回授業の終わりにレポートを提出			

授 業 科 目	心理学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	三枝 好恵
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 人間の心理と行動を科学的にとらえ説明する心理学の諸領域の基礎理論が理解できる。
- 2) 知覚・記憶・学習・思考・感情・性格（人格）・欲求など基礎心理学から看護に必要な日常行動等について理解できる。
- 3) 看護実践における人間関係に影響する諸要因を包括的に考察できる。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	心理学とは	講義	
2	心の働き 感覚・知覚	講義	
3	心の働き 記憶	講義	
4	心の働き 思考・言語・知能	講義	
5	心の働き 学習	講義	
6	心の働き 感情 性格検査 (TEG)	講義	
7	パーソナリティ 性格 性格検査 (YG)	講義	
8	発達 発達の原理・心の働き 動機付け (1)発達の原理	講義	
9	発達 発達段階の特徴	講義	
10	社会と集団	講義	
11	心理臨床 心の適応・不適応	講義	
12	心理臨床 心理療法・カウンセリング	講義	
13	医療・看護と心理 対人援助・患者の心理	講義	
14	医療・看護と心理 医療・看護職者の心理	講義	
15	終講試験	講義／試験	
使用テキスト： 辰野千寿著 「系統看護学講座 基礎分野 心理学」 医学書院		参考書： ①遠藤辰雄著「アイデンティティの心理学」 ナカニシヤ出版 ②辰野千寿著「系統看護学講座 基礎6 心理学」 医学書院 ③小田一郎編「系統看護学講座 基礎10 行動科学」 医学書院 ④敵身行雄著「ベーシック心理学」啓明出版	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	社会学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	野々村 元希
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 地域社会の特性を、歴史的背景に踏まえて、人口構造や産業構造・経済状況等の視点から理解し、生活環境としてのコミュニケーションと健康生活の関係を考察できる。
- 2) 人間の社会的行為及び社会的役割等社会的存在としての人間について理解できる。
- 3) 現実の社会現象を社会学的に分析し、理解する。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	社会学とはどういう学問か	講義	
2	社会化	講義	
3	社会化とジェンダー	講義	
4	地位と役割	講義	
5	社会と自己	講義	
6	映画「カッコーの巣の上で」①	講義	
7	映画「カッコーの巣の上で」②	講義	
8	感情と社会	講義	
9	集団の中の個人	講義	
10	組織の中の個人	講義	
11	社会的逸脱	講義	
12	予言の自己成就	講義	
13	社会的ジレンマ	講義	
14	自殺と社会	講義	
15	まとめ 終講試験	講義／試験	
使用テキスト： プリントを配布し、テキストとして使用する。		参考書： 日本社会学会編「現代社会学入門」有斐閣	
評価の方法： 試験と出席状況、平素の授業に対する取組み等による総合的な評価を行う。			

授 業 科 目	教育学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	阪本 美江
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 教育学全般の知識を習得し、多様な視点から“教育”を考察できる。
- 2) 特別支援教室や障害を有する子どもたちへの教育を理解できる。
- 3) 疾患を有する患者への教育的指導法や、医療従事者間の教育のあり方等を理解し、医療現場で役立つ“教育の知識”を習得する。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	オリエンテーション	講義	
2	教育学を学ぶ意義について	講義	
3	待機児童について	講義	
4	いじめ問題について	講義	
5	モンスターペアレントとは	講義	
6	児童虐待について	講義	
7	特別支援教育について	講義	
8	体罰の問題について	講義	
9	インクルーシブ教育について	講義	
10	心因性視力障害について	講義	
11	組織能にトラブルを抱える子供たちについて	講義	
12	視覚に障害を持つ子の特徴	講義	
13	視覚障害について	講義	
14	看護師となり患者とどう向き合うか	講義	
15	終講試験	講義／試験	
使用テキスト： 適時プリントを配布する		参考書： 必要に応じて紹介する	
評価の方法： 出席、各自の課題発表とレジュメ、終講試験			

授 業 科 目	文化人類学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	西 垣 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 将来、多くの「生と死の現場」に立ち会うことを踏まえ、民俗学・文化人類学の観点から多様な生命観を考察できる。
- 2) 高齢社会への対応のあり方について議論される中で、生命観がどのように変化していくのかを考察できる。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	イントロダクション 人間と文化	講義	
2	異文化理解とフィールドワーク	講義	
3	フィールドの事例から	講義	
4	人と人のつながり① 個人、人格、生殖	講義	
5	人と人のつながり② 生殖、代理母	講義	
6	人と人のつながり③ 婚姻、家族、親族	講義	
7	人生と時間① 儀礼と境界	講義	
8	人生と時間② 〃	講義	
9	人生と時間③ 〃	講義	
10	人生と時間④ フリーターとトレーダー	講義	
11	宗教 アニミズム、呪術、妖術	講義	
12	健康 病気・医療①	講義	
13	健康 病気・医療②	講義	
14	死	講義	
15	まとめ 終講試験	講義／試験	
使用テキスト： 文化人類学 カレッジ版 第3版 医学書院		参考書： 資料作成により配布する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	生命倫理	年	2年次	単 位	1単位	担 当	守 津 隆
		次	前期	時 間	15時間		

1. 到達目標

- 1) 死生観を捉え、衣料の変化を医学の進歩をふまえて教授し、生命と倫理をめぐる諸問題を明らかにできる。
- 2) 歴史的考察を踏まえ、脳死や安楽死、臓器移植、臨床試験、妊娠中毒、遺伝子操作や体外受精など現代「生命倫理」の諸問題のいくつかを考察できる。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	生命倫理学成立の経緯	講義	
2	安楽死、尊厳死の問題点	講義	
3	医学実験、治療実験における原則	講義	
4	障害新生児問題、出生前診断について	講義	
5	選択的妊娠中絶、医療資源の配分問題	講義	
6	がん告知とインフォームドコンセント	講義	
7	脳死と臓器移植の問題性	講義	
8	まとめ 終講試験	講義／試験	
使用テキスト： 小林亜津子著 『看護のための生命倫理』 ナカニシヤ出版		参考書： 必要時指示する	
評価の方法： 期末試験、レポート、授業参加状況などを加味して評価する			

授 業 科 目	人間関係論	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	キャンベル 早川久美子
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 自己を知ることを出発点として、関係性のなかにある人間を見ることができる。
- 2) 自己を表現することを重ねるとともに、コミュニケーションの基本的なことを理解し、そのコンピテンスの向上を図ることができる。
- 3) 人間理解に培われた自己の創造により、看護関係を捉える能力を養うことができる。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	人間関係論とは	講義	
2	エリクソンの発達理論	講義	
3	対人認知	講義	
4	対人関係と役割	講義	
5	態度と対人行動	講義	
6	集団と個人	講義	
7	コミュニケーション	講義	
8	カウンセリングと心理療法①	講義	
9	カウンセリングと心理療法②	講義	
10	カウンセリングと心理療法③	講義	
11	コーチング	講義	
12	グループ研究・プレゼンテーション①	講義・GW	
13	グループ研究・プレゼンテーション②	講義・GW	
14	グループ研究・プレゼンテーション③	講義・GW	
15	まとめ 終講試験	講義／試験	
使用テキスト： 長谷川浩編 「系統看護学講 別巻 14 人間関係論」 医学書院		参考書： 宮原哲著「入門コミュニケーション論」 松柏社 その他、授業中に紹介する	
評価の方法： 定期試験、出席状況などによる			

授 業 科 目	英語	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	人見 麻紀
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 専門分野に関して英語で書かれた書類、文献などを読む力を向上させるため、必要な英文法・語法の基礎を固めることを目標とする。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	Introduction + Unit 1(Listening & Speaking)	講義	
2	Unit1 Vocab. Review Unit 2(Listening, Speaking & Vocab.)	講義	
3	Unit 3 ①(Listening, Speaking & Vocab.)	講義	
4	Unit 3 ②(Reading, Grammar & Vocab.)	講義	
5	Unit 4 ①(Listening, Speaking & Vocab.)	講義	
6	Unit 4 ②(Reading, Grammar & Vocab.)	講義	
7	Unit 5 ①(Listening, Speaking & Vocab.)	講義	
8	Unit 5 ②(Reading, Grammar & Vocab.)	講義	
9	Unit 6 ①(Listening, Speaking & Vocab.)	講義	
10	Unit 6 ②(Reading, Grammar & Vocab.)	講義	
11	Unit 7 ①(Listening, Speaking & Vocab.)	講義	
12	Unit 7 ②(Reading, Grammar & Vocab.)	講義	
13	Unit 8 ①(Listening, Speaking & Vocab.)	講義	
14	Unit 8 ②(Reading, Grammar & Vocab.) + Review	講義	
15	期末テスト (Unit 1 ~ Unit 8)	講義/試験	
使用テキスト： 看護英語への総合的アプローチ First Aid! English for Nursing 金星堂		参考書： 資料作成により配布する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	英会話	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	人見 麻紀
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 医療、看護の場面における英語の基本的なコミュニケーション能力を身につける。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	Introduction Unit 9 & 10 (p. 41, 42, 44, 45, 46, 47, 49, 50)	講義	
2	Unit 11 (p. 51, 52, 54, 55)	講義	
3	What are your symptoms?	講義	
4	Review ※第 1 回目会話テスト	講義	
5	Unit 12 (p. 56, 57, 59, 60)	講義	
6	Have you ever had any serious illnesses?	講義	
7	Review ※第 2 回目会話テスト	講義	
8	Unit 13 (p. 61, 62, 64, 65)	講義	
9	Unit 14 (p. 66, 67, 69, 70)	講義	
10	Take one tablet, four times a day.	講義	
11	Review ※第 3 回目会話テスト	講義	
12	Unit 15 (p. 71, 72, 74)	講義	
13	How are you feeling today?	講義	
14	Review ※第 4 回目会話テスト	講義	
15	終講テスト	講義／試験	
使用テキスト： 看護英語への総合的アプローチ First Aid! English for Nursing 金星堂		参考書： 資料作成により配布する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	解剖生理学 I	年 次	1 年次	単 位	2 単位	担 当	前 田 裕 子 実務経験 有
			前期	時 間	60 時間		

1. 到達目標

1) 解剖学は、正常な身体の形態と発生を研究する学問であり、生理学は、正常な生物体の機能について研究する学問である。この二つは基礎医学教育の根幹をなすものであり、幅広く、深い理解が必要である。まず、身体は細胞、組織、器官、器官系の階層構造からなる事を理解し、次に動きの主体をなす骨格、関節、筋の特徴的な構造と機能を教授する。また生命維持に必要な、呼吸、循環、血液、体液などの植物性機能を理解する。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	人体の構造と区分	講義	
2	サイトスケルトン	講義	
3	細胞分裂	講義	
4	筋組織、神経組織	講義	
5	循環器系 心臓の構造	講義	
6	刺激伝達系 心臓の動き、心電図、心音	講義	
7	心筋ポンプ (心不全)	講義	
8	血管	講義	
9	胸大動脈	講義	
10	静脈系	講義	
11	小テスト 胎児の循環	講義	
12	リンパ本幹 リンパ節	講義	
13	小テスト 血圧の調節	講義	
14	物質交換の機序	講義	
15	咽頭 気管支 肺	講義	
16	胸膜 呼吸の生理	講義	
17	呼吸器 O ₂ と CO ₂ の運搬	講義	
18	血液 血球、血漿の性質	講義	
19	血液 止血機序	講義	
20	体液 浮腫、脱水	講義	
21	体液 アシドーシス	講義	
22	免疫 抗体の種類と仕組み	講義	
23	アレルギー 自己免疫疾患	講義	
24	免疫不全 体温	講義	
25	骨格系	講義	
26	筋肉の動き	講義	
27	骨格筋①	講義	
28	骨格筋②	講義	
29	筋の生理学	講義	
30	試験	講義/試験	
使用テキスト： ①日野原重明他著「系統看護学講座 専門基礎 1 解剖生理学」医学書院 ②プリント		参考書： ①山田和克監修「病気の地図帳」講談社 ②高橋長雄監修「体の地図帳」講談社	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	解剖生理学Ⅱ	年 次	1 年次	単 位	2 単位	担 当	辻 内 俊 文 実務経験 有
			前・後期	時 間	60 時間		

1. 到達目標

- 1) 人間の正常な体の構造を理解することで病変部位をしっかりと把握し、健康な体の中で行われている代謝、生殖、恒常性などの機構やこれらの調節と維持に関係する情報伝達をよく理解して、看護の基礎的な知識を修得できる。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	循環器(動脈と静脈の相違点)	講義	
2	随環器(心筋、迷走神経反射、左室右室の相違点、心タンポナーデ)	講義	
3	循環器(心臓の弁、弁膜症、刺激伝導系、冠状動脈)	講義	
4	循環器(冠状静脈洞、混合静脈血、生理的シャント、大動脈弓からでる枝、大脳動脈輪)	講義	
5	循環器(脳出血動脈、大脳基底核、内包)	講義	
6	循環器(脳脊髄液の循環、硬膜静脈洞、SAH)	講義	
7	循環器(リンパの流れ)、消化器(口腔)	講義	
8	消化器(唾液腺、外分泌、食道)	講義	
9	消化器(胃、ピロリ菌、胃潰瘍治療薬)	講義	
10	消化器(膵臓の機能)	講義	
11	消化器(血糖値の調節、胆汁の役割、脂肪の消化)	講義	
12	消化器(直腸、工門括約筋の神経支配、腸間膜)	講義	
13	腎泌尿器(膀胱、ネフロン構造)	講義	
14	腎泌尿器(血圧の調整、RAA系、降圧剤)	講義	
15	腎泌尿器(糖尿病3大合併症)、眼の構造	講義	
16	腎泌尿器(尿の生成)	講義	
17	血液(骨髄、造血、血液細胞、核の左方移動)	講義	
18	血液(血液凝固、APTT時間、PT時間)	講義	
19	血液(白血球系、胸腺、免疫細胞)	講義	
20	血液(細胞性免疫、体液性免疫、ワクチン)	講義	
21	生殖器(染色体、男性生殖器)	講義	
22	男性生殖器(前立腺、腫瘍マーカー)	講義	
23	女性生殖器(子宮、月経周期、ホルモンによる調節)	講義	
24	神経(大脳の発生、脳神経、脊髄神経)	講義	
25	神経(外側皮質脊髄路、前皮質脊髄路、ALS)	講義	
26	神経(脊髄視床路、大脳基底核の役割)	講義	
27	神経(自律神経、薬理)、呼吸器(副鼻腔)	講義	
28	呼吸器(呼吸筋、肺気量分画、肺胞の構造)	講義	
29	呼吸器(肺換気障害、肺線維症、肺気腫、血液ガス記号)	講義	
30	呼吸器(酸塩基平衡) 呼吸器(FV曲線、呼吸不全) 試験	講義/試験	
使用テキスト： 日野原重明他著「系統看護学講座 専門基礎1解剖生理学」医学書院		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	生化学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	宮岡 朋子 実務経験 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 生体を作っている物質の構造を知り、食餌性の栄養物質が生命活動の中でどのように変化するかを理解できる。
- 2) 生体の主要成分の性質、構造について、および、合成・分解経路などの代謝について理解できる。
- 3) 人体を構成している臓器や組織における特有の代謝（栄養）について理解できる。

授 業 回 数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	生化学を学ぶための基礎知識①	講義	
2	生化学を学ぶための基礎知識②	講義	
3	糖質の構造と機能	講義	
4	脂質の構造と機能	講義	
5	たんぱく質の構造と機能	講義	
6	酵素	講義	
7	補酵素、ビタミン、ミネラル	講義	
8	糖代謝①	講義	
	糖代謝②	講義	
9	脂質代謝 たんぱく質代謝	講義	
10	ポルフォリン代謝	講義	
11	核酸代謝 遺伝子複製	講義	
12	遺伝子 転写、翻訳、修飾、発現抑制	講義	
13	シグナル伝達	講義	
14	まとめ 終講試験	講義／試験	
15			
使用テキスト： ①三輪一智他著「系統看護学講座 専門基礎 2 生化学」医学書院 ②鏡山博行監修「看護学生のための 生化学・栄養学」金芳堂		参考書： 奥原英二著「一般生化学 改訂第4版」南江堂	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	栄養学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	松本 香織 実務経験 有
		次	後期	時 間	15 時間		

1. 到達目標

- 1) 食生活を QOL、ライフサイクルから捉え、健康的な生活を営む上で必要な栄養について、消化・吸収について、疾病と食事との関わりなどを学ぶ。
- 2) 食生活が「命の源」であることを踏まえて、よりよく生きることを考える。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	栄養素の種類と働き	講義	
2	食事と食品 食物の消化吸収代謝	講義	
3	ライフステージと栄養	講義	
4	臨床栄養① BMI の計算	講義	
5	臨床栄養② 疾患別栄養管理	講義	
6	臨床栄養③ 疾患別栄養管理	講義	
7	臨床栄養④ 嚥下訓練食	講義	
8	まとめ 終講試験	講義／試験	
使用テキスト： ①小野章史他編著「系統看護学講座 専門基礎 3 栄養学」医学書院。 ②鏡山 博行監修「看護学生のための 生化学・栄養学」金芳堂。		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	微生物学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	神田 靖士 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 各種微生物の特性とそれによって起こる感染症及び免疫に関する基礎的な知識を習得する。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	微生物学概論	講義	
2	細菌の増殖と感染症の種類	講義	
3	免疫(1)	講義	
4	免疫(2)	講義	
5	滅菌と消毒	講義	
6	感染症対策	講義	
7	細菌感染症(1)	講義	
8	細菌感染症(2)	講義	
9	細菌感染症(3)	講義	
10	細菌感染症(4)	講義	
11	細菌感染症(5)	講義	
12	ウイルス学総論・各論(1)	講義	
13	ウイルス学各論(2)	講義	
14	ウイルス学各論(3)	講義	
15	ウイルス学各論(4) 試験	講義／試験	
使用テキスト： 天児和暢他著「系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学」医学書院		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 出席状況及び定期試験、レポート等による。			

授 業 科 目	病理学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	辻内 俊文 実務経験 有
		次	前・後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。
- 2) 人を世話するにあたって基本となる姿勢、考え方やどのような援助が人のためになり、または人のためにならないかなどについて学んでいく。
- 3) 看護を志す初学者としての、基本的な考え方を身につける。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	病理序論、病理検査、奇形	講義	
2	腸管循環、新生児.溶血性.閉塞性黄疸	講義	
3	肝細胞性黄疸、核黄疸、浮腫、腹水の貯留	講義	
4	血栓、塞栓、DIC	講義	
5	変性(脂肪変性.糖原変性.アミロイドーシス)、門脈圧亢進	講義	
6	炎症、腫瘍総論(良性.悪性腫瘍の相違点、がんの分類)	講義	
7	腫瘍総論(がんの転移)	講義	
8	腫瘍総論(TNM 分類、腫瘍マーカー)	講義	
9	血液の疾患(貧血)	講義	
10	血液の疾患(白血病)	講義	
11	血液の疾患(悪性リンパ腫、多発性骨髄腫)	講義	
12	肝疾患(ウイルス性肝炎)	講義	
13	肝疾患(肝硬変.肝がん)、胃潰瘍	講義	
14	消化器疾患(胃潰瘍、ポリープ、胃がん)	講義	
15	消化器疾患(炎症性腸疾患、大腸がん) 試験	講義/試験	
使用テキスト： 坂本穆彦編「系統学看護講座 専門基礎分野 病理学」医学書院		参考書： 随時プリント配布	
評価の方法： 定期試験及び授業時の小テスト、出席状況等			

授 業 科 目	疾病論 I	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	辻内 俊文 陰山 克 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 器官系統別（循環器系）に主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について看護の視点から、病状を判断し、より良い看護実践する能力を身につける。
- 2) 器官系統別（血液・造血器）に主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について看護の視点から観察し、病状を判断し、より良い看護実践する能力を身につける。

授 業 回 数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	心臓の発生、胎児循環、卵円孔開存	講義	
2	心奇形(VSD, PDA, ファロー四徴症)、川崎病	講義	
3	バルサルバ手技、生理的シャント、東刺激伝導系	講義	
4	心電図(12誘導)	講義	
5	心電図(基本波形の読み方、心筋の収縮)	講義	
6	心電図(活動電位、抗不整脈薬、高カリウム血症)	講義	
7	右脚ブロック・左脚ブロック、不整脈(上室性不整脈)	講義	
8	不整脈(心室性不整脈、AV ブロック)	講義	
9	冠動脈造影検査、虚血性心疾患	講義	
10	心筋梗塞(ECG)、弁膜症、心不全	講義	
11	血液・造血器系の検査・疾患	講義	
12	赤血球の疾患	講義	
13	白血球系の疾患	講義	
14	悪性リンパ腫	講義	
15	出血性疾患 試験	講義／試験	
使用テキスト： 吉田俊子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕循環器 医学書院 飯野京子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕血液・造血器 医学書院		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	疾病論Ⅱ	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	米澤 泰司 栗岡 晴海 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 器官系統別（呼吸器系）に主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について看護の視点から観察・病状を判断し、より良い看護実践する能力を身につける。
- 2) 器官系統別（脳・神経）に、代表的な疾患の病因・病態生理・治療・検査について看護の視点から観察・判断が可能となる知識と技術を理解し、看護実践への能力を身につける。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	解剖生理	講義	
2	他覚所見	講義	
3	検査	講義	
4	人工呼吸器	講義	
5	治療法	講義	
6	結核 IP	講義	
7	BA COPD PTE	講義	
8	肺腫瘍・胸膜疾患	講義	
9	基礎的知識	講義	
10	おもな症状	講義	
11	病態生理	講義	
12	内科的治療法	講義	
13	外科的治療法	講義	
14	検査と治療	講義	
15	疾患の理解 試験	講義／試験	
使用テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院 竹村信彦他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院		参考書： 坂井建雄他著「系統看護学講座 専門基礎1 人体の構造と機能 1」医学書院	
評価の方法： 出席 終講試験			

授 業 科 目	疾病論Ⅲ	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	良元 文弘 松浦 純平 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 器官系統別（消化器）に主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について看護の視点から観察し、病状を判断し、より良い看護実践する能力を身につける。
- 2) 器官系統別（内分泌・代謝）に、代表的な疾患の病因・病態生理・治療・検査について看護の視点から観察・判断が可能となる知識と技術を理解し、看護実践への能力を身につける。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	消化管疾患の症状とその病態生理	講義	
2	PT、PT・INR、PT 活性値	講義	
3	消化管悪性腫瘍と早期がん、進行がん	講義	
4	閉そく性黄疸、総胆管結石症	講義	
5	ウイルス性肝炎	講義	
6	脂肪肝・過栄養脂肪肝	講義	
7	肺がん 転移性肝がん	講義	
8	内分泌総論	講義	
9	甲状腺、副甲状腺 等	講義	
10	視床下部、下垂体 等	講義	
11	クッシング、糖尿病 等	講義	
12	DM 定義、合併症 等	講義	
13	高脂血症、肥満 等	講義	
14	メタボ UA KG代謝 等	講義	
15	試験	試験／試験	
使用テキスト： 松田明子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 医学書院 黒江ゆり子他著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕内分泌・代謝 医学書院		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	疾病論IV	年	2年次	単 位	1単位	担 当	吉川 聡 辻村 大輔 山村 匡 久門 正義 実務経験 有
		次	前期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- 1) 排泄機能の障害、中枢神経機能の障害や主要な疾患の病因・病態生理・治療・検査等について看護の視点から病状を判断し、より良い看護実践する能力を身につける。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	腎・泌尿器系の基礎的知識 形態と機能	講義	
2	〃 主要症状と病態生理・検査と留意点	講義	
3	腎・泌尿器疾患の病態像及び治療方法	講義	
4	男性生殖器疾患の病態増及び治療方法	講義	
5	歯・口腔の疾患の形態と機能	講義	
6	〃 主要症状と病態生理・検査と留意点	講義	
7	〃 主な疾病と治療主要	講義	
8	〃 病態生理	講義	
9	感覚器（眼）の形態と機能	講義	
10	〃 眼科検査法と留意点	講義	
11	〃 主な疾病の病態像及び治療方法	講義	
12	耳鼻咽喉のしくみ構造と機能	講義	
13	耳鼻咽喉疾患で生じる主な症状	講義	
14	耳鼻咽喉疾患の主な検査と治療法	講義	
15	主な耳鼻咽喉疾患の診療 試験	講義／試験	
使用テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 15 歯・口腔 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 13 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 14 耳鼻咽喉 医学書院		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	疾病論V	年	1年次	単 位	1単位	担 当	寺西 朋裕 深井 和恵 実務経験 有
		次	後期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- 1) 器官系統別〔骨格・筋〕に、代表的な疾患の病因・病態生理・治療・検査について看護の視点から観察・判断が可能となる知識と技術を理解し、看護実践への能力を身につける。
- 2) 女性生殖器系の異常によって発現する症状と病態がもたらす生理機能の変化や、主な診察・検査・治療の種類と方法について学び、看護実践に応用できる能力を身につける。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	運動器の構造と機能	講義	
2	症状とその病態生理	講義	
3	診断・検査と治療・処置	講義	
4	外傷性（外因性）疾患（1）骨折・脱臼	講義	
5	外傷性（外因性）疾患（2）捻挫および打撲・神経の損傷	講義	
6	外傷性（外因性）疾患（3）筋・腱・靭帯等の損傷	講義	
7	非外傷性（内因性）疾患（1）先天性疾患・炎症性疾患ほか	講義	
8	非外傷性（内因性）疾患（2）代謝性骨疾患・神経の疾患	講義	
9	非外傷性（内因性）疾患（3）上肢および上肢帯の疾患ほか	講義	
10	基礎知識（1）女性生殖器系の解剖・生理	講義	
11	基礎知識（2）女性生殖器系疾患の症状と病態生理	講義	
12	女性生殖器系疾患の理解（1）外陰の疾患・膣の疾患・子宮の疾患	講義	
13	（2）卵巣の疾患・卵管の疾患・骨盤腹膜の疾患	講義	
14	（3）月経異常・更年期障害・感染症疾患	講義	
15	（4）不妊症と避妊・乳房疾患 試験	講義／試験	
使用テキスト： 織田弘美他著 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学[10]運動器 医学書院 岡田清他著 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院 松本清一編 系統看護学講座 専門分野II 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	疾病論VI	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	栗岡 英行 栗岡 晴海 西脇 洋子 実務経験 有
		次	前・後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 免疫・アレルギー、感染症、皮膚に代表的な疾患の病因・病態生理・治療・検査について看護の視点から観察・判断が可能となる知識と技術を理解し、看護実践への能力を身につける。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	免疫異常	講義	
2	アレルギー検査と治療	講義	
3	膠原病	講義	
4	関節リウマチ	講義	
5	全身性エリマトーデス	講義	
6	感染症総論	講義	
7	検査、抗菌薬	講義	
8	呼吸、心、消化器感染	講義	
9	消化器、泌尿器 STD 梅毒	講義	
10	真菌、ウイルス、皮膚中枢	講義	
11	HIV 寄生虫	講義	
12	皮膚の構造と機能①	講義	
13	皮膚の構造と機能②	講義	
14	疾患の理解	講義	
15	テスト	講義／試験	
使用テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 1 1 アレルギー・膠原・感染症 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 1 2 皮膚 医学書院		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	治療総論	年	1 年次	単 位	2 単位	担 当	松浦 純平 上原 信一 坂本 琢 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 疾病の成り立ちを踏まえて、生活の視点に立った各種の治療方法を学ぶ。
- 2) 上記を踏まえて、看護する機能を考察し、実践への能力を養う。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	手術療法の歴史と医療安全	講義	
2	手術室の医療安全	講義	
3	全身麻酔法	講義	
4	伝達麻酔と局部麻酔薬	講義	
5	各科の手術療法①	講義	
6	各科の手術療法②	講義	
7	各科の手術療法③	講義	
8	術後管理、日帰り手術	講義	
9	リハビリテーションとは	講義	
10	運動療法	講義	
11	金力増強	講義	
12	W/C T-cane まとめ	講義	
13	放射線療法とは	講義	
14	放射線療法の実際	講義	
15	テスト	講義／試験	
使用テキスト： 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	薬理学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	大西 良治 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 薬理学の基礎知識及び薬物の特徴・作用機序と人体への影響について教授する。
- 2) 薬物療法の実際を踏まえて、看護の立場から機能を理解し、実践への能力を育成する。
また、薬物管理についても教授する。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	1・薬理学総論 1) 薬とは	講義	
2	2) 薬理作用	講義	
3	3) 薬効に影響を及ぼす要因	講義	
4	4) 薬の有害作用	講義	
5	5) 薬の適用 6) 処方の実際	講義	
6	2・薬理学各論 1) 感染症薬、消毒薬	講義	
7	2) 免疫治療薬	講義	
8	3) アレルギー及び炎症に対する薬物	講義	
9	4) 末梢での神経活動に作用する薬物	講義	
10	5) 中枢神経系に作用する薬物	講義	
11	6) 心臓血管系に作用する薬物	講義	
12	7) 呼吸器系、消化器系、生殖器系に作用する薬物	講義	
13	8) 物質代謝に作用する薬物	講義	
14	9) 抗癌剤	講義	
15	10) 外用薬 11) 漢方薬	講義／試験	
使用テキスト： 吉岡充弘他著 『系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学』 医学書院		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 定期試験・課題提出等によって総合的に評価する。			

授 業 科 目	社会福祉論	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	太田 啓子 実務経験 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

社会福祉の法体系・サービス体系を中心に教授する。さらには、社会福祉を社会的諸問題への対応策として考察し、その問題の担い手となる対象者に対する社会福祉的援助・処遇にかかわる諸問題について、医療・看護との関わりをふまえて教授する。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	1. 社会福祉の基本的性格	講義	
2	2. 生活問題の展開と社会福祉の基本的動向	講義	
3	3. 社会保障制度	講義	
4	4. 社会保険制度 1 (年金保険・医療保険)	講義	
5	5. 社会保険制度 2 (雇用保険・労働者災害補償保険)	講義	
6	6. 社会保険制度 3 (介護保険)	講義	
7	7. 社会福祉の法体系と関連機関	講義	
8	8. 社会福祉の分野とサービス体系 1 (老人福祉・老人保健)	講義	
9	9. 社会福祉の分野とサービス体系 2 (障害者福祉)	講義	
10	10. 社会福祉の分野とサービス体系 3 (児童福祉・母子福祉)	講義	
11	11. 社会福祉の分野とサービス体系 4 (生活保護)	講義	
12	12. 社会福祉実践の共通基盤 1 (直接的援助技術・間接的援助技術)	講義	
13	13. 社会福祉実践の共通基盤 2 (事例検討)	講義	
14	14. 社会福祉と医療・看護との連携	講義	
15	15. 定期試験	講義／試験	
使用テキスト： 『系統看護学講座 専門基礎分野 社会福祉』 医学書院		参考書： ミネルヴァ書房編集部編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房 厚生労働省「厚生労働白書」厚生統計協会 各年版 厚生統計協会 「国民の福祉の動向」各年版	
評価の方法： 定期試験・課題提出等によって総合的に評価する。			

授 業 科 目	保健科学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	畠山 雅之 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

人々が健康であり続けることを支援するためには、病気に罹った人を対象にした治療や医学的モデルにもとづいた働きかけのみではありません。時代や社会の進歩とともに変容している「健康」という言葉の意味を理解して、現在、そして今後、社会が求めている「健康である状態」をつくりあげ、維持するために必要な活動、対策を疫学的視点およびヘルスプロモーションの視点から学び、健康の担い手としての専門的センスを高めることを目的とします。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	公衆衛生の概要	講義	
2	成人保健	講義	
3	予防と健康維持増進	講義	
4	人口統計 保健統計	講義	
5	疫学	講義	
6	予防と健康	講義	
7	ICF の定義	講義	
8	ヘルスプロモーション・エンパワメント	講義	
9	予防と健康増進	講義	
10	産学連携	講義	
11	公衆衛生総論	講義	
12	高齢者の健康と生活	講義・GW	
13	難病と食品 健康と栄養	講義・GW	
14	災害保健	講義・GW	
15	テスト	講義／試験	
使用テキスト： 新体系看護学 13 公衆衛生学 メヂカルフレンド社		参考書： 各年版国民衛生の動向 必要に応じて授業中に紹介。	
評価の方法： 出席、授業中の小レポート、試験の成績をもとに評価する。			

授 業 科 目	運動科学	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	富田 寿美恵 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

健康づくりのための運動の意義を理解し、ライフステージに応じたスポーツが実践できる基礎を学ぶ。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	健康の概念	講義	
2	食事と健康	講義	
3	栄養バランスと健康	講義	
4	運動習慣と健康	講義	
5	実技 バスケットボールなど	実技	
6	実技 〃	実技	
7	ロコモティブシンドローム	講義	
8	実技 バレーボールなど	実技	
9	実技 〃	実技	
10	DVD「なめらかな関係プレー」	講義	
11	運動不測の害	講義	
12	トレーニングの原理原則	講義	
13	筋収縮の様式	講義	
14	骨の健康と運動	講義	
15	テスト	講義／試験	
使用テキスト： 健康づくりのための運動の科学 化学同人		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	関係法規	年	2年次	単 位	1単位	担 当	青木 千鶴香 実務経験 有
		次	後期	時 間	30時間		

1. 到達目標

健康な生活を維持するために必要な法規を修得させると共に、特に保助看法については看護職者の役割と法的責任について理解させる。法律とはなじみにくく難解なものだと敬遠されがちであるが、学生が身近に興味を持つことができるよう取り組みたい。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	法規の基礎知識	講義	
2	保健師助産師看護師法	講義	
3	研修	講義・GW	
4	研修	講義・GW	
5	発表 人に関する法律	講義・GW	
6	発表 物・場所に関する法律	講義・GW	
7	発表 介護保険法	講義・GW	
8	発表 特別な配慮を必要とする人に関する法律	講義・GW	
9	発表 社会的弱者政策に関する法律	講義・GW	
10	療養上の世話 診療の補助の判例	講義	
11	法律の概要	講義	
12	研修	講義・GW	
13	看護職の働き方改革	講義	
14	まとめ	講義	
15	試験	講義／試験	
使用テキスト： わかりやすい関係法規 ニューヴェルヒロカワ		参考書： 資料作成より	
評価の方法： 終講試験（小テスト加味）			

授 業 科 目	看護学概論	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	青木 千鶴香 実務経験 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 看護とは何か、看護師とはどのような職業かを学ぶ。
- 2) 人を世話するにあたって基本となる姿勢、考え方やどのような援助が人のためになり、または人のためにならないかなどについて学んでいく。
- 3) 看護を志す初学者としての、基本的な考え方を身につける。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	看護とは何か	講義	
2	看護とは何か … 私の看護観	講義	
3	看護の継続性と情報共有	講義	
4	看護の継続性と情報共有 … 事例	講義	
5	看護の対象の理解 … 人間のこころとからだ	講義	
6	看護の対象の理解 … 人間の「暮らし」の理解	講義	
7	国民の健康・生活の全体像の把握 … 健康のとらえ方	講義	
8	国民の健康・生活の全体像の把握 … 国民のライフサイクルと健康・生活	講義	
9	看護の提供者 … 職業としての看護	講義	
10	看護の提供者 … 看護職の資格と養成にかかわる制度	講義	
11	看護における倫理	講義	
12	看護における倫理 … 看護実践における倫理問題への取り組み	講義	
13	看護の提供のしくみ	講義	
14	広がる看護の活動領域	講義	
15	まとめ 終講試験	講義／試験	
使用テキスト： 『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学(1) 看護学概論』 医学書院		参考書： 必要時、授業で紹介する	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	基礎看護技術論 I	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	大池 秀子 大庭 未央 実務経験 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 看護技術を学ぶにあたっての「技術とはなにか」について考えることができる。
- 2) コミュニケーションの特徴と医療・看護の場でのコミュニケーションの特殊性を考える。
- 3) 看護の場での人間関係におけるコミュニケーションの重要性を考える。
- 4) コミュニケーションの基本的な方法について学び、それを実践する。
- 5) コミュニケーション障害がある人の特徴と効果的な対応を学ぶ。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	シラバスの説明・自己紹介・アンケート	講義	
2	技術とはなにか	講義	
3	看護技術の特徴	講義	
4	看護技術の範囲	講義	
5	看護技術を適切に実践するための要素	講義	
6	コミュニケーションとは	講義	
7	看護におけるケアリングとコミュニケーション	ロールプレイング	
8	コミュニケーションのプロセスと影響を及ぼす因子	講義	
9	医療における信頼関係とコミュニケーションの基本	ロールプレイング	
10	看護の場でのコミュニケーションの実際	講義	
11	看護の場でのコミュニケーションの実際	ロールプレイング	
12	コミュニケーション障害がある人への対応	演習	
13	コミュニケーション講座 (K E C教育グループ)	演習	
14	コミュニケーション講座 (K E C教育グループ)	講義	
15	終講試験		
使用テキスト： 教科書 系統看護学講座専門 I 基礎看護技術 I 医学書院 新体系看護学全書基礎看護学② 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社		参考書： 母性看護実習ガイド(照林社)	
評価の方法： 出席状況 授業参加状況 課題レポート 終講試験			

授 業 科 目	基礎看護技術論Ⅱ 看護過程 学習支援	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	磯垣 純子 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- ①看護理論も基づき、対象の健康問題に対する看護上の問題を判断し、解決するために必要な看護過程の基礎的な能力を身に付けることができる。
- ②看護における学習支援の目的を理解し、その実際を学ぶ。

授 業 回 数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	看護過程とは	講義	
2	看護理論とは	講義・GW	
3	看護における観察、看護的な情報収集	講義・GW	記録用
4	情報収集（常在条件、病理的状态の違い）	講義・GW	紙 NO.1
5	慢性閉塞性肺疾患の事例展開	講義・GW	～NO.5
	情報の分析と解釈（①呼吸～③排泄）	講義・GW	
6	情報の分析と解釈（④移動・体位の保持～⑧清潔）	講義・GW	
7	情報の分析と解釈（⑨危険回避～⑭学習）	講義・GW	
8	全体像の捉え方について	講義・GW	記録用
9	関連図の書き方	講義・GW	紙 NO.6
10	看護問題と看護診断について	講義	～NO.8
11	看護計画の立案方法、倫理的配慮と価値判断について	講義・GW	
12	学習支援の実際：看護過程の事例患者の看護問題から考える	講義・GW	
13	事例に基づいた教育・指導案を実施	ロールプレ	
14	12、13 回の実施からの振り返り、看護における学習支援について	イング	
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソンの看護論の実践 ニューヴェルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ニューヴェルヒロカワ		参考書：	
評価の方法： 筆記試験 6 割とレポートと出席状況、授業態度 4 割で評価			

授 業 科 目	基礎看護技術論Ⅲ	年	1年次	単 位	1単位	担 当	中山 恵美 実務経験 有
		次	前期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- 1) フィジカルアセスメントの臨床看護実践での意義と重要性を理解することが出来る。
- 2) 正確に情報を把握するためのフィジカルイグザミネーション技術を習得することが出来る。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント フィジカルアセスメントの看護の役割 内臓エプロンの作成	講義・GW	
2	フィジカルアセスメントに必要な看護技術 問診・視診・触診・打診・聴診	講義	
3	呼吸器のフィジカルアセスメント	講義	
4	循環器のフィジカルアセスメント	講義	
5	消化器のフィジカルアセスメント	講義	
6	身体計測について 身長・体重・BMI・腹囲・胸囲・頭囲の測定目的と方法 関節可動域とは 徒手筋力測定法（MMT）とは	講義」	
7	呼吸器・消化器・循環器のフィジカルアセスメントの実際 呼吸音の聴診 腹部の聴診 心音の聴診	演習	
8	バイタルサイン測定① 体温測定・脈拍測定・呼吸測定について	講義	
9	バイタルサイン測定② 血圧測定・意識レベルの測定について	講義	
10	バイタルサイン測定の技術演習	演習	
～			
13			
14	バイタルサイン測定の技術試験についての説明 まとめ	講義	
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院		参考書：	
評価の方法： 終講試験、レポートの提出状況・内容、授業・演習態度、出席状況を総合的に評価する			

授 業 科 目	生活援助技術論 I	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	大森 かほり 実務経験 有
		次	前期	時 間	3 0 時間		

1. 到達目標

療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床のアセスメントと調整について学び、病床の環境整備、ベッドメイキング、リネン交換が実施できる

対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法、摂食・嚥下訓練について学び、食事介助の方法を学ぶことができる。

非経口的栄養摂取の援助について理解することができる

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	環境とは	講義 GW	
2	療養生活の環境	講義	
3	ベッドメイキングについて：手順	講義	
4	ベッドメイキング①デモンストレーション	演習	
5	ベッドメイキング②	演習	
6	ベッドメイキング③	演習	
7	ベッドメイキング④	演習	
8	臥床患者のリネン交換①	演習	
9	臥床患者のリネン交換②	演習	
1 0	患者の環境を考える～ベッド周囲を観察して～	演習 GW	
1 1	環境整備について	講義・演習	
1 2	食事援助の基礎知識、食事摂取の介助	講義 GW	
1 3	摂食・嚥下訓練、非経口的栄養摂取の援助	講義	
1 4	食事介助①	演習	
1 5	食事介助②	演習	
使用テキスト： 医学書院 専門分野 1 基礎看護学実習 II メヂカルフレンド社 基礎看護学③ 基礎看護技術 II		参考書： 看護技術がみえる① 基礎看護技術	
評価の方法： 筆記試験			

授 業 科 目	生活援助技術論Ⅱ (活動・休息 排泄)	年 次	1年次	単 位	1単位	担 当	餘目 尚代 実務経験 有
			前期・後期	時 間	30時間		

1. 到達目標

あらゆる健康レベルにある対象の日常生活援助に対応できる基礎的援助技術について、知識・技術を習得する。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	1) 活動・休息援助技術・苦痛の緩和・安楽確保の技術 (1) 活動・休息の意義	講義	課題
2	(2) 基本的活動の基礎知識 ① 良い姿勢、廃用症候群、良肢位 ② ボディメカニクス	講義	
3	(3) 体位 (2) 体位変換とポジショニング	講義 演習	
4	(3) 体位変換とポジショニング	講義	
5	(4) 移動・移送 ① 車椅子、ストレッチャー、歩行の援助について	演習	
6	(5) 移動・移送 ① 車椅子、ストレッチャー	講義	
7	(6) 睡眠・休息の援助	講義	
8	(7) 温罨法・冷罨法	演習	
9 10	終講試験		
1 1	2) 排泄援助技術		
1	(1) 排泄の意義と重要性	講義	
2	(2) 排泄の援助に必要な知識	講義	
3	(3) 排泄の観察	講義	
4 5	(4) 排泄の援助技術 ・グリセリン浣腸と床上排泄介助	演習	
6	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 新体系 看護学全書 基礎看護学 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		参考書： 授業中に掲示する	
評価の方法：出席状況・課題・筆記試験 筆記試験の採点は「活動と休息」70%、「排泄」30%合わせて100%とする 温罨法・冷罨法の課題提出については提出期限に提出すれば10点の加点あり			

授 業 科 目	生活援助技術論Ⅲ	年 次	1 年次	単 位	1 単位	担 当	川島 千鶴 実務経験 有
			前・後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 身体の清潔の意義と重要性についてを理解する。
- 2) 皮膚・粘膜の生理的知識に基づいた清潔の方法を理解する。
- 3) 清潔の方法による身体への負担の違いを理解する。
- 4) 患者の安全・安楽を考え、清潔の援助を実践することができる。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	オリエンテーション 清潔援助の基礎知識（皮膚・粘膜の構造と機能）	講義	プリン ト 配布
2	衣服を用いることの意義と身体の清潔の援助方法 （入浴・シャワー浴・手浴・足浴）～お湯にふれてみよう～	演習	
3	洗髪・寝衣のたたみかたのデモンストレーション	演習	
4	〃 実施	演習	
5	洗髪の演習1	演習	
6	洗髪の演習2	演習	
7	全身清拭のデモンストレーション	演習	
8	〃 実施	演習	
9	整容と口腔ケア1	演習	
10	整容と口腔ケア2	演習	
11	陰部洗浄1	演習	
12	陰部洗浄2	演習	
13	洗髪車と洗髪台での洗髪	演習	
14	〃 実施	演習	
15	筆記試験（60分）	試験	
使用テキスト： 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書 院） 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（メヂ カルフレンド社）		参考書： 看護技術講義・演習ノート （医学芸術社）	
評価の方法： 自己学習ノート（プリント配布）の提出・確認テスト 筆記試験 ・課題レポート・授業（演習）に取り組む態度 ＊ケリーパッドでの洗髪の技術試験及び全身清拭（足浴、寝衣交換も含む）の技術試験			

授 業 科 目	診療援助技術論	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	中山 恵美 川島 千鶴 実務経験 有
		次	後期	時 間	3 0 時間		

1. 到達目標

医療行為の目的や内容、方法を理解し、診察の介助をする必要性がわかる。適切な方法によって検体採取をし、生体情報のモニタリングや検査値を情報として利用するための基礎知識を習得する。感染成立の基本を知り、感染防止のための標準予防策を実践できる。与薬の目的と看護の役割・薬剤等の管理方法を理解する。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	診察時における看護者の役割	講義	
2	診察介助の方法	講義・GW	
3	検査時の看護者の役割	講義・GW	
4	検体採取方法とその取り扱い方	講義・演習	
5	感染防止の基礎知識と標準予防策	講義	
6	感染経路別予防策の基礎知識と対策の実際	講義・GW	
7	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識と対策の実際 手洗い	演習・講義	
8	無菌操作・感染性廃棄物・カテーテル関連血流感染の基礎知識	講義	
9	無菌操作・滅菌手袋の装着・ガウンテクニックの実際	演習	
1 0	与薬の基礎知識（薬物の基本的性質と薬の管理）	講義	
1 1	経口与薬・口腔内与薬・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬について 援助の基礎知識と援助の実際	講義・GW	
1 2	注射の基礎知識と注射の実施法	講義・GW	
1 3	皮内・皮下・筋肉内注射・点滴静脈内注射	講義・GW	
1 4	皮内・皮下・筋肉内注射・点滴静脈内注射	演習	
1 5	輸血管理の基礎知識と援助の実際	講義・GW	
使用テキスト： 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 基礎看護技術Ⅱ 医学書院		参考書： 基礎看護技術Ⅰ メディカルフレンド社 基礎看護技術Ⅱ メディカルフレンド社	
評価の方法： 筆記試験、レポート提出、演習態度			

授 業 科 目	臨床看護総論	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	餘目 尚代 川島 千鶴 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 各健康レベルの概念と健康障害を持つ対象とその家族のニーズを理解する。
- 2) 経過に伴う患者の看護について理解する。
- 3) 主要症状を示す患者の看護について理解する。
- 4) 治療・処置を受ける患者への看護を理解する。
- 5) 基本的な看護の知識や技術を統合し、看護実践に応用するプロセスを学ぶ。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護 ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ	講義・演習	
2	健康状態の経過に基づく看護 ・健康状態と看護 ・健康の維持・増進をめざす看護	講義・演習	
3	急性期における看護	講義・演習	
4	慢性期における看護	講義・演習	
5	リハビリテーション期における看護	講義・演習	
6	終末期における看護	講義・演習	
7.8	主要症状を示す対象者への看護	講義・演習	
9	治療・処置を受ける対象者への看護 ・化学療法を受ける対象者への看護	講義	
10	・放射線療法を受ける対象者への看護 ・手術療法を受ける対象者への看護	講義	
11.12	治療・処置における看護技術・包帯法・酸素療法・吸入・吸引法	講義・演習	
13.14	事例による看護実践の展開	講義・演習	
15	まとめ		
使用テキスト： 系統学看護講座専門分野Ⅰ臨床看護総論医学書院 系統学看護講座専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ医学書院			
参考書： 授業時、必要に応じて紹介する			
評価の方法： 授業態度・演習参加態度・筆記試験・課題レポート・提出物の期限厳守			

授 業 科 目	看護研究概論	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	平野 朋子 実務経験 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

1. 看護事象を科学的根拠に基づき理論的に分析し、考察する能力を育成する。
2. 研究方法や研究レポートの書き方及び文献研究などについて教授する。
3. 看護技術を科学的根拠に基づきより良い方法を創意・工夫する能力を養う。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1.2	1. 看護研究の意義と目的 1) 看護研究の歴史 2) 看護研究の意義と目的 3) 看護実践における看護研究の役割	講義・演習	
3.4	2. 看護研究における倫理的配慮 1) 身体的・精神的苦痛や危害の防止 2) インフォームド・コンセント 3) プライバシーの保護	講義・演習	
5.6	3. 研究方法(研究デザイン) 1) 研究のアプローチ法(帰納法・演繹法) 2) 研究デザインの種類(質的研究・量的研究)	講義・演習 講義・演習	
7.8	4. 資料収集法 1) 質問紙調査 2) 面接法 3) 観察法 4) 既存の検査、測定尺度の利用 5) 文献、既存の資料	講義・演習 講義・演習 講義・演習	
9.10	5. 看護研究のプロセス 1) 研究目的と概念枠組みの明確化 2) 研究方法の選定 3) 資料の収集 4) 分析結果とその解釈(考察) 5) 効果的なプレゼンテーション	講義	
11.12	6. 文献検索 1) 文献検索の重要性 2) 文献の読み方 3) 文献検索法 4) 文献検討 5) 文献の入手	講義・演習 講義・演習	
13.14 15	7. ケーススタディのプロセス 1) 研究の動機・目的の明確化 2) 文献検索 3) 研究テーマの設定 4) 研究計画書の作成 5) ケーススタディの作成(グループワーク) 6) 研究の発表		
使用テキスト： 黒田裕子著 黒田裕子の看護研究 医学書院		参考書： 授業時、必要に応じて紹介する	
評価の方法： 提出物の提出状況・内容およびグループワークでの参加状況・貢献度による。			

授 業 科 目	成人看護学概論・ 保健論	年	1 年次	単 位	1 単位	担 当	礪垣 純子 実務経験 有
		次	後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- ①成人期にある人の身体的・心理的・社会的特徴とその発達課題が理解できる。
- ②成人期にある人を取り巻く社会と健康に関する動向、健康問題の特徴が理解できる。
- ③成人期にある人の健康状態や健康問題に対応した基本的な考え方や方法が理解できる。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	成人期にある人の理解：	講義	・ポート
2	1. 成人期とは 2. ライフサイクルの中での成人の位置づけと意義 3. 生涯発達の視点からみた成人の特徴	講義	フォリオ の作成
3	成人期の健康特性：	講義・GW	・気にな
4	1. 成人期における健康障害の特徴 170 ※事例から考える	講義・GW	るシート
5	2. 保健・医療・福祉システム 3. 1次、2次、3次予防の現状と対応	講義・GW	の作成
6	成人期の看護アプローチの基本：	講義・GW	・ビジョ
7	※気になるシートの発表	講義・GW	ン・ゴー
8	1. 成人看護における倫理と看護者の役割	講義・GW	ルの作成
9	2. 成人看護に利用される倫理とモデル： アンドラゴジー、ストレスコーピング、家族看護理論、アビヒアランス、危機理論、痛みの軌跡、エンパワーメント、セルフケア理論、自己効力論、適応理論	講義・GW	
10	1. 健康の定義	講義	
11	2. ヘルスプロモーション 3. 成人期にある人への看護について考える 【成人期にある患者が望む看護】	講義	
12	継続看護と健康教育：	講義	
	1. 健康増進と教育 2. チームアプローチ 3. 社会資源の活用		
13		発表	
14	「プロジェクト学習発表会」：ひとり発表3分・質疑応答あり	発表	
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院		参考書：	
評価の方法：筆記試験（70点）プレゼンテーション（10点）ポートフォリオ（20点）合計：60点以上 で合格			

授 業 科 目	成人臨床看護論 I	年	2 年次	単 位	単 位	担 当	磯垣 純子 大庭 未央 実務経験 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- ①健康と健康障害の概念を理解するとともに、看護の方法を考察する能力を養う
 ②機能障害と共生する生活観を持てる看護実践を考察する能力を育成する

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	1. 慢性期疾患患者の看護	講義	
2	① 慢性期とは・患者の特徴	講義	
3	② 障害受容について、家族理解、社会資源、看護の役割	講義	
3	II. 慢性疾患を持っている患者看護	講義、GW	
4	① 腎不全患者の看護	講義、GW	
5	② 腎移植、前立腺患者の看護について	講義	
6	③ 感覚器（褥瘡、熱傷患者の看護）	講義	
7	④ アトピー性皮膚炎（スキンケア、外用薬）	講義、GW	
8	⑤ 視覚障害の看護	講義	
9	⑥ 免疫・アレルギー S L E 患者の看護・ステロイド療法	講義	
10	⑦ 内分泌 解剖生理・下垂体疾患患者の看護	講義	
11	⑧ 内分泌 甲状腺・副甲状腺疾患患者の看護	講義	
12	⑨ 内分泌 副腎疾患患者の看護	講義	
13	⑩ 代謝 脂質異常症患者の看護・尿酸代謝異常患者の看護	講義	
14	III. 2 型糖尿病患者の看護	講義、GW	
15	・事例検討	GW	
16	・糖尿病指導パンフレットについての話し合い	GW	
17	終講試験		
使用テキスト：臨床看護学総論(医学書院) 内分泌・代謝 成人看護学⑥ (医学書院) 腎・泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院) アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑪ (医学書院) 皮膚・目 成人看護学⑫⑬ (医学書院)		参考書： 成人看護学総論 (医学書院) 薬理学 (医学書院) 解剖生理学 (医学書院)	
評価の方法： 記述試験			

授 業 科 目	成人臨床看護論Ⅱ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	中山 恵美 臨床看護師 (高井病院) 実務経験 有
		次	前期	時 間	30時間		

1. 到達目標

生命危機や情緒的危機に遭遇した成人の生体反応、精神的・心理的影響を理解する。

急性期の病態や侵襲とその生体反応及び一般的な術後合併症とその看護の基礎的知識を習得する。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	生命の危機的状況にある人の理解(生命の危機的状態とは・急性期にある人の特徴)	講義	
2	生命の危機状態にある患者の看護援助(急性骨髄性白血病患者の看護・化学療法)	講義	
3	手術及び麻酔の実際とその侵襲・生体反応・手術が及ぼす心理的社会的影響	講義・GW	
4	手術を受ける患者の看護(手術前・中の看護・検査・アセスメント・術前オリエンテーション)	講義・演習	
5	手術を受ける患者の看護(手術直後の看護・術後合併症とその予防)	講義・GW	
6	手術・放射線療法を受ける患者の看護(食道がん患者の看護)	講義・GW	
7	直腸癌患者の看護(手術後合併症について・疼痛・排便障害)	講義・GW	
8	直腸癌患者の看護(関連図と看護問題の絞り込み)	講義・GW	
9	脳外科看護について	講義・GW	臨床看護師
10	胃切除術を受けた患者の看護	講義・GW	臨床看護師
11	ラバ胆と開腹胆のう摘出術を受ける患者の看護	講義・GW	臨床看護師
12	ストーマ造設術を受ける患者の看護	講義・GW	臨床看護師
13	心筋梗塞患者の看護・心臓について(循環器の検査、ICUシンドローム、心臓リハビリテーション)	講義・GW	臨床看護師
14	心電図、輸液管理(ツルース・輸液ポンプ)	講義・GW	臨床看護師
15	まとめ	講義・GW	
使用テキスト：成人看護学概論(医学書院) 臨床看護学総論(医学書院) 周手術期看護 学研 臨床外科看護総論 医学書院		参考書： 成人看護学(消化器) 医学書院 周手術期看護(ナーシングセレクション)	
評価の方法： 筆記試験、レポート			

授 業 科 目	成人臨床看護論Ⅲ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	大森 かほり 実務経験 有
		次	前期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- 1) 骨・関節、筋系及び神経系の疾患をもつ患者の看護を学ぶことが出来る
- 2) 回復期におけるリハビリテーション看護を理解し、対象の回復と自立、社会復帰に向けての援助方法を学ぶことが出来る
- 3) 各疾患の事例を通し、対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、解決能力を養うことが出来る

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	リハビリテーション看護とは チームの中での役割、障害とは、障害受容について	講義・GW	DVD
2	リハビリテーションのステージ リハビリテーション期における看護倫理	講義・GW	
3	患者の生きる力を支えるケア ノーマライゼーション、レジリエンス、エンパワーメント	講義	
4	運動機能障害とは	講義	
5	運動器疾患を持つ患者の看護、患者の特徴、看護の役割	講義	
6	検査の看護、保存療法を受ける患者の看護	講義	
7	変形性膝関節症患者の看護	講義	
8	変形性膝関節症患者の看護：事例から考える	講義・GW	
9	大腿骨近位部骨折患者の看護	講義・GW	
10	四肢切断（下肢切断）を余儀なくされた人の看護	講義	
11	脊髄損傷患者の看護：病態、原因、リハビリテーションの流れ	講義	
12	脊髄損傷患者の看護の実際	講義	
13	高次脳機能障害とは：病態、原因、リハビリテーションの流れ 高次脳機能障害患者の看護の実際①	講義 講義	
14	高次脳機能障害患者の看護の実際②	講義	
15	終講試験		
使用テキスト： ヌベールヒロカワ 成人看護学リハビリテーション看護論第3版 医学書院 専門分野Ⅱ運動器 成人看護学⑩ 医学書院 専門分野Ⅱ脳・神経 成人看護学⑦		参考書：	
評価の方法： 筆記試験 レポート			

授 業 科 目	成人臨床看護論Ⅳ	年	2年次	単 位	単 位	担 当	大庭 未央 実務経験 有
		次	後期	時 間	30時間		

1. 到達目標

終末期にある対象者が残された時間を、その人らしく全うできるように家族を含めた看護を考えることが出来る

授 業 回 数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	健康レベルにおける位置づけ ターミナルケア・緩和ケアの考え方	講義、GW DVD	
2	死の意味と死の概念・死をめぐる倫理的課題	講義	
3	終末期にある人の身体的、社会的、心理的、礼的特徴について	講義、GW	
4	死の受容過程、患者や家族の予期悲嘆への援助	講義DVD	
5	子ども・認知症・高齢者・難病患者の看護学科	講義	
6	危篤時の看護学科	講義	
7	エンゼルケア	講義DVD	
8	1. 肺がん患者の看護	講義	
9	呼吸困難・睡眠障害・化学療法・放射線療法	講義	
10	肺がん患者の看護についての事例検討	GW	
11	2. すい臓がん患者の看護 食欲不振・浮腫・疼痛緩和	講義	
12	すい臓患者看護の事例検討	GW	
13	3. 白血病患者の看護 輸血・造血幹細胞移植・感染予防	講義	
14	白血病患者看護の事例検討	GW	
15	終講試験		
使用テキスト： 臨床看護学総論（医学書院） 緩和ケア（医学書院） 呼吸器 成人看護学②（医学書院） 血液・造血器 成人看護学（医学書院） 消化器 成人看護学⑤（医学書院）		参考書： がん看護学（医学書院） 医療安全（医学書院） エンドオブライフケア看護学（ヌーヴェルヒロカワ）	
評価の方法： 終講試験			

授 業 科 目	成人臨床看護論V	年	2年次	単 位	1単位	担 当	西窪 昌代 中山 恵美 実務経験 有
		次	後期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- 1) 手術術後患者の事例を通して、個別性にあわせた看護過程を紙上に現すことができる。
- 2) 患者の身体的・精神的・社会的側面を総合的に理解し、看護過程を展開することで、知識の統合・アセスメント・看護計画立案の実施ができる。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	事例紹介 胃癌（胃全摘術）紙上患者の情報収集とアセスメント * 課題学習の確認（胃癌の病態生理・全身麻酔・ムーアの分類）	個人ワーク	
2	情報の整理とアセスメントの実際（ヘンダーソンの14項目）	個人ワーク	
3	情報の整理とアセスメントの実際（ヘンダーソンの14項目） 全体像の把握	GW	
4	関連図を描く	個人ワーク	
5	関連図を描く	GW	
6	看護上の問題を抽出する	GW	
7	看護目標の設定と計画の立案	GW	
8	事例紹介（終末期）肝細胞癌 末期、授業の進め方		
9	NO. 1の情報収集、14項目の分析（①呼吸、②飲食）	講義	
10	14項目の分析（③排泄～⑥衣生活）	講義、個人	
11	14項目の分析（⑦体温・循環～⑩意思表示・コミュニケーション）	ワーク	
12	14項目の分析（⑪信仰～⑭学習）、関連図の書き方について		
13	関連図	GW	
14	看護計画の説明と立案	個人ワーク	
15	看護計画の立案、まとめ	個人ワーク	
使用テキスト： 周手術期看護 学研 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 消化器 医学書院 ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ニューヴェルヒロカワ		参考書： 成人看護学（消化器） 医学書院	
評価の方法： 提出課題の評価、平常点			

授 業 科 目	老年看護学概論 保健論	年 次	1 年次	単 位	1 単位	担 当 者	大池 秀子 実務経験 有
			後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 老年期における対象の特徴を理解し、老年看護の目的と意義について理解する。
- 2) 高齢者をとりまく環境と保健・医療・福祉における老年看護の役割を理解する。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	授業計画の説明 老年期における対象の理解	プリント	
2	高齢者のイメージについて		
3	高齢者のイメージ図の作成	G・W	
4	高齢者のイメージについてグループ発表	発表	
5	老いるとは？ 老化とは？ 老年期の発達課題	プリント	
6	老いるとは？ 老化とは？ 老年期の発達課題	プリント	
7	高齢者と社会保障 介護保険	プリント	
8	高齢者と社会保障 介護保険	プリント	
9	高齢者と社会保障 高齢者虐待 身体拘束 権利擁護	プリント	
10	高齢者体験 1	体験実習	
11	高齢者体験 2	体験実習	
12	高齢者のアセスメント 1	G・W	
13	高齢者のアセスメント 2	G・W	
14	高齢者のアセスメント 3	G・W	
15	高齢者のアセスメント 発表	G・W	
15	終講試験		
使用テキスト： 医学書院 系統別看護講座 専門分野Ⅱ 「老年看護学」「老年看護 病態・疾患論」		参考書： 随時紹介	
評価の方法： 出席状況 授業参加状況 課題レポート 終講試験			

授 業 科 目	老年臨床看護論 I	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	上川 比呂勝 餘目 尚代 実務経験 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- ① 加齢の変化が日常生活に及ぼす影響を理解し、生活支援の方法を理解する
- ② 健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護について理解する

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	1、高齢者の生活機能を整える看護の展開 A 日常生活を支える基本的活動	講義	
2	B 食事・食生活	講義	
3	C 排泄 D 清潔	講義	
4	E 生活リズム F コミュニケーション	講義	
5	G セクシュアリティ H 社会参加	講義	
6	2、治療を必要とする高齢者の看護 A 検査を受ける高齢者の看護 B 薬物療法を受ける高齢者の看護	講義	
7	C 手術を受ける高齢者の看護 D リハビリテーションを受ける高齢者の看護 E 入院治療を受ける高齢者の看護	講義	
8	3、エンドオブライフケア A エンドオブライフケアの概念 B 「生ききる」ことを支えるケア C 意思決定への支援 D 末期段階に求められる援助	講義	
9.10	4、老年看護技術	演習	
11.12	5、老年症候群	GW 演習	
13	6、アルツハイマー型認知症①	講義	
14	アルツハイマー型認知症②	講義	
15	まとめ	講義	
使用テキスト： 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論 医学書院		参考書： 必要時紹介する	
評価の方法： 筆記試験・レポート課題			

授 業 科 目	老年臨床看護論Ⅱ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	北村 美穂 宮崎 尚也 実務経験 有
		次	後期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- ①高齢者の日常生活の自立に向けたリハビリテーションについて理解する
- ②高齢者の医療・福祉施設及び在宅における看護について理解する

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	在宅高齢者への看護 ・介護予防 ・訪問看護 ・地域包括ケア	講義	
2	保健医療福祉施設における看護 ・長期療養について ・介護老人保健施設 ・特別養護老人施設	講義	
3	介護保険に必要な社会資源について ・在宅サービス ・通所サービス ・施設サービス ・認知症について	講義	
4	介護を必要とする高齢者を含む家族への看護 ・介護家族の動向 ・介護者の役割変化 ・家族への看護	講義	
5	高齢者のリスクマネジメント ・医療安全 ・救命救急 ・災害看護	講義	
6.7	高齢者の疾患の特徴 変形性膝関節症	講義	
8.9	高齢者の運動器リハビリテーション	講義	
10.11	内部障害リハビリテーション 呼吸リハビリテーション	講義	
12.13	援助技術 杖歩行など	演習	
14	事例による高齢者のリハビリテーションの実際	演習	
15	まとめ		
使用テキスト： 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学 医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護病態・疾患論 医学書院			
参考書： 必要時紹介する			
評価の方法 筆記試験			

授 業 科 目	老年臨床看護論Ⅲ	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	餘目 尚代 実務経験 有
		次	後期	時 間	15 時間		

1. 到達目標

- 1) 対象の疾患を理解することができる
- 2) 老年期の発達課題、加齢に伴う変化を理解し、疾患・治療による日常生活への影響をアセスメントすることができる
- 3) アセスメントに基づいて対象の全体像を捉え、看護問題を挙げることができる
- 4) 看護問題の解決に向けて、具体的な計画を立案することができる

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1)	老年看護の看護過程について 事例紹介 事前学習	講義	
2)	事前学習	演習	
3)	情報の整理	講義・演習	
4)	アセスメント	講義・演習	
5)	アセスメント	演習	
6)	関連図	GW・演習	
7)	看護計画	講義・演習	
8)	看護計画 提出	演習	
使用テキスト： 系統学看護講座 専門分野Ⅱ老年看護学医学書院 統学看護講座 専門分野Ⅱ老年看護病態・疾患論 医学書院		参考書： 授業時必要に応じて紹介する	
評価の方法： 評価表を使用 出席状況 学習態度 提出物			

授 業 科 目	小児看護学概論・ 保健論	年	2年次	単 位	1単位	担 当	森 ウメ子 実務経験 有
		次	前期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- 1) 現代の子どもと家族を取り巻く社会状況、及び小児看護における看護の役割と目的を学ぶ
- 2) 小児期各期の特徴と健全な成長・発達を理解し、成長、発達に適した環境及び生活援助について教授する
- 3) 子どもをめぐる諸問題について理解し、子どもにとっての最善の利益や育児支援について考える

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	1. 小児看護の特徴と理念 小児看護の変遷、小児看護の目指すところ、小児と家族の諸統計	講義	
2	小児看護における倫理、小児看護の課題	講義	
3	2. 子供の成長・発達 成長とは・発達とは、成長・発達の進み方・発達理論 成長・発達に影響する因子・成長・発達の評価	講義	
4	3. 子供の栄養 子どもにとって栄養の意義・発達段階別の子どもの栄養の特徴と 看護、子どもと食事、	講義	
5	4. 小児各期の特徴と看護	講義	
6	①新生児・乳児の形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達	講義	
7	新生児・乳児の療育および看護	講義	
8	②幼児・学童期の形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達	講義	
9	幼児・学童期の療育および看護	講義	
10	③思春期・成年期の身体生理の特徴、生活の特徴、心理・社会的適	講義	
11	応に関する問題など、思春期の看護	講義	
12	5. 家族の特徴とアセスメント	講義	
13	6. 子どもと家族を取り巻く社会 ①児童福祉、母子保健、医療費の支援、予防接種	講義	
14	②学校保健、特別支援教育など	講義	
15	終講試験		
使用テキスト： 小児看護学概論・小児臨床看護学総論（医学書院）		参考書： 必要時授業で紹介する	
評価の方法： 筆記試験			

授 業 科 目	小児臨床看護学 I	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	川島 実 実務経験 有
		次	前期	時 間	3 0 時間		

1. 到達目標

- 1) 小児期に特有な疾患・病態・症状・診断・治療などについて理解する
- 2) 「事故・外傷」「子どもの虐待」など近年の小児医療の課題と対策について理解する

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	先天性異常	講義	
2	新生児	講義	
3	代謝異常、内分泌性疾患	講義	
4	免疫・アレルギー疾患・リウマチ性疾患	講義	
5	感染症・呼吸器疾患	講義	
6	循環器疾患	講義	
7	消化器疾患	講義	
8	血液・造血器疾患	講義	
9	悪性新生物	講義	
1 0	腎・泌尿器疾患	講義	
1 1	神経系疾患	講義	
1 2	運動器疾患	講義	
1 3	皮膚疾患・眼疾患	講義	
1 4	耳鼻咽喉疾患・精神疾患・事故	講義	
1 5	終講試験	試験	
使用テキスト： 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） 小児看護学各論（医学書院）		参考書： 必要時授業で紹介する	
評価の方法： 出席状況・レポート・筆記試験			

授 業 科 目	小児臨床看護論Ⅱ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	西窪 昌代 実務経験 有
		次	前期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- 1) 小児看護に必要な看護の知識・技術を学び、病棟、外来における看護の役割を知る
- 2) 健康障害や入院が子供や家族に及ぼす影響について理解することができる
- 3) 疾病の経過に応じた看護や障害を持つ子どもとその家族の理解と社会支援について理解する

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	1. 障害及び入院が小児と家族に及ぼす影響と看護	講義DVD	
2	2. 入院中の子どもの環境（外来も含めて）	講義DVD	
3	3. 疾病の経過と看護	講義DVD	
4	4. 子どものアセスメント	講義DVD	
5	5. 症状の看護①	講義	
6	6. 検査・処置時の看護①	講義	
7	7. 検査・処置時の看護②	講義DVD	
8	8. 障害のある子供の看護	講義	
9	9. 子どもの虐待と看護	講義	
10	10. 演習（ベビー抱っこ体験、ベビーベッドの取扱い、身体測定）	講義	
11	11. 各疾患の看護① ・呼吸器系・感染症	講義	
12	12. 各疾患の看護② ・循環器系・腎系	講義	
13	13. 各疾患の看護③ ・消化器系	講義	
14	14. 各疾患の看護④ ・事故	講義	
15	15. 終講試験		
使用テキスト： 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） 小児臨床看護各論（医学書院）		参考書： パーヘクト臨床実習ガイド小児看護（照林社） やさしくわかる小児看護技術（ナツメ社）	
評価の方法：終講試験			

授 業 科 目	小児臨床看護論Ⅲ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	川島 千鶴 実務経験 有
		次	後期	時 間	15時間		

1. 到達目標

- 1) 健康障害のある子どもに対して、発達段階、健康障害の特徴に応じた子どもと家族に必要な看護援助について考えられる

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	1. 情報収集・アセスメントの視点 ・事例紹介 ・疾患の理解と情報収集	講義 個人ワーク	疾患、検査、治療は個人で学習
2	2. 情報収集と健康障害からの分析	講義	
3	・子どもの成長発達の理解と子どもと家族の状況 ・病態生理・健康障害の影響（子供、家族に影響を及ぼす4側面を考える）	GW 個人ワーク	
4	3. 関連図に情報収集した内容が書けて問題点が記入できる	個人ワーク	
5	4. 看護問題の明確化	個人ワーク	
6	・看護方針・看護目標（長期・短期目標）		
7	5. 看護計画立案	GW	
8		個人ワーク	
使用テキスト： 小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） 小児臨床看護各論（医学書院） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（ヌーヴェルひろかわ）		参考書： 基準看護計画（照林社） ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（ヌーヴェルひろかわ）	
評価の方法：最終提出物の記述内容			

授 業 科 目	母性看護学概論・ 保健論	年 次	2 年次	単 位	1 単位	担 当	深井 和恵 実務経験 有
			前期	時 間	3 0 時間		

1. 到達目標

- 1) 母性の概念を理解し、母性看護の特徴について学ぶことができる。
- 2) 母性をとりまく社会の現状を知り、母子保健活動の役割を理解し、看護の機能と役割について学ぶことができる
- 3) リプロダクティブヘルス／ライツを基盤とした生命尊重や生命倫理について考えることができる。
- 4) ライフサイクル各期の特徴を理解し、女性の一生を通じた健康の保持・増進・回復をめざした看護について学ぶことができる。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	母性の概念と母性看護の意義・役割	講義	感想文提出
2	・母性の概念及び特性・母性看護の意義・役割・母性意識の発達過程		
3	生命の誕生に関するDVD鑑賞	DVD鑑賞	
4	母性看護の変遷と動向	講義	
5	・リプロダクティブヘルス／ライツ・セクシュアリティの概念と意義		
6	・母性看護の変遷・母性看護における法律・統計・施策	講義	
7	母性の身体的・心理的・社会的特性	講義	
8	・生殖の構造と機能、性分化（発生）、ジェンダー、家族と家族機能他		
9	母性看護の対象	講義	
10	・女性のライフサイクルに伴う形態と機能		
11	・女性のライフサイクル各期の健康障害と看護		
12	・女性・家族のライフサイクル		
13	・母性の発達・成熟・継承・リプロダクティブヘルスケア		
14	母性を取り巻く環境	講義	
15	母性保健の現状		
16	リプロダクティブヘルス／ライツ・生命倫理に関するDVD鑑賞	DVD鑑賞	感想文提出
17	母性看護における生命倫理	講義	
18	・生命倫理と看護倫理 ・生殖補助医療技術の進歩と課題		
19	母性看護の課題と必要な看護技術		
20	ライフサイクル各期における特徴と看護について	講義	
21	ライフサイクル各期における特徴と看護について	GW	
22	ライフサイクル各期における特徴と看護について	GW発表	
23	終講試験		
使用テキスト： 系統学看護学講座専門分野Ⅱ母性看護学概論 母性看護学①医学書院		参考書：授業中に掲示する	
評価の方法：出席状況、筆記試験、感想文提出、授業態度、GW成果発表等を総合的に評価する			

授 業 科 目	母性臨床看護論 I	年	2 年次	単 位	2 単位	担 当	愛甲 美香子 実務経験 有
		次	前期・後期	時 間	6 0 時間		

1. 到達目標

- 1) 妊娠、分娩、産褥期および新生児期を通して、母子の健康の保持・増進・回復をめざした看護について学ぶことができる。
- 2) 妊娠、分娩、産褥期および新生児期の異常について理解し、母子に応じた看護の方法が理解できる。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	1) 女性生殖器の解剖と生理	講義	
2	2) 出生前からのリプロダクティブヘルスケア ・遺伝相談 ・不妊治療と看護	講義	
3	3) 妊娠期の経過と看護 ・妊娠期の身体的特性 ・妊娠期の心理・社会的	講義	
4	・妊婦と胎児のアセスメント ・妊婦と家族の看護	講義	
5	・妊婦の異常と看護	講義	
6	4) 分娩期の経過と看護 ・分娩の要素 ・分娩の経過	講義	
7	・産婦・胎児・家族のアセスメント ・産婦と家族の看護 ・分娩期の看護の実際	講義	
8	・分娩の異常と看護	講義	
9	5) 産褥期の経過と看護 ・産褥経過	講義	
10	・褥婦のアセスメント	講義	
11	・褥婦と家族の看護 ・退院後の看護	講義	
12	・産褥の異常と看護	講義	
13	6) 新生児の生理と看護 ・新生児の生理 ・新生児のアセスメント ・新生児の看護	講義	
14	・新生児の異常と看護	講義	
15	終講試験		
使用テキスト： 系統学看護講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院		参考書：授業中に掲示 する	
評価の方法：筆記試験			

授 業 科 目	母性臨床看護論Ⅱ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	深井 和恵 川島 千鶴 実務経験 有
		次	後期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- 1) 妊婦・産婦・褥婦に必要な一般的な母性看護技術を、安全・安楽と羞恥心に配慮して行うことができる。
- 2) 新生児看護に必要な基礎的技術を、安全と愛護を意識して行うことができる。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	妊娠期における看護(妊娠初期の健診時の看護)	講義	
2	妊婦の保健指導の実際 (妊婦体操・腹帯の巻き方の実施)	講義	
3	妊婦の保健指導の実際 (レオポルド触診法とNSTの装着法)	講義	
4	妊娠後期の両親学級を運営しよう！(生活指導・呼吸法と産痛緩和等)	講義	
5	妊娠後期の両親学級を運営しよう！	講義	
6	分娩期における看護 ① 分娩第1期～2期の看護	講義	
7	分娩期における看護 ②-1 分娩第3期～4期の看護	講義	
8	分娩期における看護 ②-2 分娩第3期～4期の看護	講義	
9	新生児期における看護 ① フィジカルアセスメント	講義	
10	新生児期における看護 ②-1 沐浴・ミルク授乳・排気	講義	
11	新生児期における看護 ②-2 沐浴・ミルク授乳・排気	講義	
12	おむつ交換などの実施	講義	
13	産褥期における看護 ①-1 フィジカルアセスメント	講義	
14	産褥期における看護 ①-2 フィジカルアセスメント	講義	
15	産褥期における看護 ② 授乳の介助・乳房ケア	講義	
使用テキスト： 母性看護学各論(医学書院) 母性看護学概論(医学書院)		参考書:母性看護実習 ガイド(照林社)	
<p>評価の方法：評価の方法：授業参加の態度 10点 課題レポート 10点 筆記試験 80点 課題レポートについて</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊婦ジャケット装着による校内の日常生活体験(2人1組になって指定項目に沿って実施) 妊婦の生活体験：階段の上り下り・椅子に座って靴ひもを結ぶ・新生児を抱き上げる 2) 育児体験人形を用いて育児体験をする(抱っこ・オムツ交換・授乳・排気・沐浴) 			

授 業 科 目	母性臨床看護論Ⅲ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	深井 和恵 実務経験 有
		次	後期	時 間	15時間		

1. 到達目標

- 1) 正常褥婦の事例を基に、ウェルビーイングの視点で対象をとらえ、母子の看護過程の展開技術を習得することができる。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	母性看護における看護展開の概要	講義	
2	妊娠期の事例展開	講義	
3		GW	
4	分娩期の事例展開	講義	
5		講義	
6	産褥期の事例展開	講義	
7		講義	
使用テキスト： 系統学看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統学看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院		参考書：授業中に掲示 する	
評価の方法： レポート、GW、実習態度等を総合的に評価する。			

授 業 科 目	精神看護学概論・ 保健論	年	1年次	単 位	1単位	担 当	竹内 昌子 実務経験 有
		次	後期	時 間	15時間		

1. 到達目標

心の健康について重要となる概念を理解し、精神症状が対象の内面でどのように体験されているのかを学習し、ありのままの対象を理解し、イメージすることができる。

精神保健医療の歴史の変遷を踏まえ、現在の精神保健福祉法における医療の形態や精神保健看護の特徴を理解する。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	精神保健の目的と精神保健医療・政策 (入院医療から地域生活へ)	講義	
2	精神障害・精神症状が対象の内面でどのように体験されているのか①	講義・GW	闘病記・ノン
3	精神障害・精神症状が対象の内面でどのように体験されているのか②	講義・GW	フィクション
4	精神的健康とは・精神的健康を支える要因とは	講義・GW	DVD
5	こころの構造とはたらしき 自我心理学；自我の防衛機制 フロイト・エリクソン	講義・GW	
6	危機理論とストレス理論 (ストレスコーピング・トラウマ)	講義・GW	
7	精神保健福祉法における医療の形態と看護の役割①	講義・GW	
8	精神保健福祉法における医療の形態と看護の役割②	講義・GW	
9	権利擁護と看護者の倫理	講義・GW	
10	精神保健医療の歴史の変遷①	講義・GW	
11	精神保健医療の歴史の変遷②	講義・GW	
12	地域精神保健における1次予防・2次予防・3次予防とリカバリー	講義・GW	妄想カルタ
13	生活の場と精神保健 (地域におけるケアと連携)	講義・GW	
14	精神科以外での精神看護 (リエゾン精神看護)	講義・GW	
15	まとめ (終講試験)	講義・GW	
使用テキスト： 新体系看護学全書 精神看護学概論・精神保健 メジカルフレンド社 新体系看護学全書 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社		参考書： 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(1) 精 神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学(2) 精 神看護の展開 医学書院	
評価の方法： 出席状況・筆記試験70%・レポート30%			

授 業 科 目	精神臨床看護論 I	年	2 年次	単 位	1	担 当	上川 比呂勝 有村 由美子 実務経験 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

精神障害者の病態を理解するとともに、治療・処置・検査について学ぶことができる

患者—看護師関係の中でコミュニケーション技術を通しての自己理解と治療的關係について理解できる

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	統合失調症概説 症例：破瓜型	講義	
2	統合失調症 症例：緊張型	講義	
3	統合失調症 症例：妄想型	講義	
4	統合失調症の治療および問題点	講義	
5	気分障害 うつ障害 双極性障害	講義	
6	P T S D パニック障害 カウンセリングの実際	講義	
7	不安症・不安障害群、強迫症	講義	
8	パーソナリティ障害	講義	
9	薬物治療・電気けいれん療法リハビリテーション療法・精神療法	講義	
10	精神障害をもつ人とのかかわり方	講義	
11	精神障害をもつ人とのコミュニケーション	講義	
12	プロセスレコード①	講義・演習	
13	プロセスレコード②	講義・演習	
14	プロセスレコード③	講義・演習	
15	終講試験		
使用テキスト： メヂカルフレンド社 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護		参考書：	
評価の方法： 筆記試験			

授 業 科 目	精神臨床看護論Ⅱ	年	2年次	単 位	1	担 当	上中 秀一 実務経験 有
		次	後期	時 間	30時間		

1. 到達目標

精神障害者の日常生活行動の援助の実際が理解できる

精神症状のある患者への看護の実際を理解できる

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	精神障害をもつ人とのかかわりかた	講義	
2	精神障害をもつ人とのコミュニケーション	講義	
3	うつ病の患者の事例から看護を考える	講義	
4	患者による自己管理：服薬管理等	講義	
5	治療的環境と患者の生活	講義	
6	精神科作業療法・作業療法士的アプローチ リハビリテーション療法、SST、デイケア	講義	
7	統合失調症の急性期・回復期・慢性期看護を考える	講義	
8	看護を考える：幻覚・妄想	講義	
9	看護を考える：うつ・双極性障害	講義	
10	看護を考える：認知症	講義	
11	看護を考える：アルコール依存症	講義	
12	地域精神福祉と社会参加 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際	講義	
13	家族への支援	講義	
14	精神障害がある人の身体合併症に対する看護	講義	
15	終講試験		
使用テキスト： メヂカルフレンド社精神看護学② 精神障害をもつ人の看護		参考書：	
評価の方法： 筆記試験			

授 業 科 目	精神臨床看護論Ⅲ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	大森 かほり 実務経験 有
		次	後期	時 間	15時間		

1. 到達目標

統合失調症の看護過程を展開し、知識の統合と看護実践する能力を養うことが出来る

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	オリエンテーション、事例紹介	演習	
2	情報の解釈、分析①	演習	
3	情報の解釈、分析②	演習	
4	情報の解釈、分析③	演習	
5	情報の解釈、分析④	演習	
6	看護上の問題、優先順位、看護方針	演習	
7	看護計画立案	演習	
8	プロセスレコードの書き方	演習	
使用テキスト： メヂカルフレンド社新体系看護学全書 精神看護学②精神障害をもつ人の看護		参考書： はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく 精神科看護過程 第2版 医歯薬出版株式会社 事例で学ぶ看護過程PART1 Gakken	
評価の方法： レポート（看護過程No.1～8、11）			

授 業 科 目	在宅看護概論	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	大池 秀子 実務経験 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 日本の在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。
- 2) 在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解できる。
- 3) 在宅看護の対象者の特性とその支援の基本を理解できる。
- 4) 在宅ケアを支える制度や社会的資源を説明できる。
- 5) 在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。
- 6) 現在の訪問看護制度の基本を理解できる。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	1・在宅看護の目的と特徴	講義	
2	①在宅看護の目指すもの	講義	
3	②在宅看護における看護師の役割	講義	
4	2・在宅看護の対象者	講義	
5	①対象者の特徴	講義	
6	②住まい方と健康	講義	
	③家族	講義	
7	3. 在宅療養の支援	講義	
8	①在宅看護の提供方法	講義	
9	②療養の場の移行	講義	
	③在宅看護の基本となるもの	講義	
10	4. 在宅看護にかかわる法令・制度とその活用	講義	
	5. 在宅看護の展開		
11	①在宅看護過程展開のポイント	講義	レポ ー ト 提 出
12	②在宅看護過程の展開方法	講義	
13	③療養上のリスクマネジメント	講義	
14	④在宅看護における権利保障	講義	
15	終講テスト	試験	
使用テキスト： 「系統看護学講座」在宅看護論 医学書院		参考書：ナーシング・グラフィカ 「地域療養を支えるケア」	
評価の方法： 出席状況、授業態度、課題レポート、終講試験などを総合して評価する。			

授 業 科 目	在宅看護実践論 I	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	平井 由加里 実務経験 有
		次	前期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 在宅看護の日常生活援助技術及び医療処置に伴う生活行動支援方法を学ぶことが出来る。
- 2) 在宅医療の生活の質を高めるための社会資源の活用などを在宅ケアに関わる必要な知識と技術を学ぶことが出来る。
- 3) 在宅医療を進めるために必要な訪問マナー・コミュニケーション技術の実践力を養うことが出来る。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	訪問看護とは (介護保険と医療保険の利用法・コミュニケーション技術)	講義	
2	呼吸に関する在宅看護技術 呼吸に関する観察と援助ポイント 介護力のアセスメント	講義	
3	食生活・嚥下に関する在宅看護技術 在宅での口腔ケアの方法と指導の実際 ころみの作り方	講義・ 演習	
4	経管栄養法とは 種類と適応条件 管理方法 合併症とその対応	講義	
5	在宅中心静脈栄養法とは 感染管理 廃棄方法 緊急時の対応 種類と適応条件	講義	
6	尿道留置カテーテル・ストーマについて 種類と適応条件 合併症とその対処法 身体障害者手帳について	講義	
7	排泄に関する在宅看護技術 移動・移乗に関する在宅看護技術 補助具・住宅改修のポイント	講義	
8	清潔に関する在宅看護技術 (清拭・シャワー浴・入浴)	講義	
9	清潔に関する在宅看護技術 (洗髪・足浴の演習)	演習	
10	在宅酸素療法 (HOT) とは 目的 対象 管理方法 緊急時の対応	講義	
11	在宅人工呼吸療法とは 在宅での吸引方法と指導の実際	講義・ 演習	
14	適応条件 NPPV HMV カフアシストについて		
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院			
参考書：			
評価の方法： 筆記試験			

授 業 科 目	在宅看護実践論Ⅱ	年	2年次	単 位	1単位	担 当	平野 朋子 実務経験 有
		次	後期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- 1) 訪問看護の対象となる障害者・機能障害をもつ高齢者・難病を抱える療養者などとその家族や生活背景などをアセスメントし、看護実践できる能力を養うことが出来る。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	訪問看護開始の流れ 多職種連携の実際 在宅看護介入時期別の特徴	講義	DVD
2	在宅看護過程展開の考え方	講義	DVD
3	感染症をもつ療養者とその家族への援助	講義	
4	認知症状のみられる療養者とその家族への援助	講義	
5・6	終末期にある療養者とその家族への援助	講義	
7	精神障害症状のみられる療養者とその家族への援助	講義	
8	心筋梗塞の既往のある療養者とその家族への援助	講義	
9	パーキンソン病の療養者とその家族への援助	講義	
10	脳卒中後遺症のある療養者とその家族への援助	講義	
11	糖尿病の療養者とその家族への援助	講義	
12	小児の療養者とその家族への援助	講義	
13	COPDの療養者とその家族への援助①	講義	
14	COPDの療養者とその家族への援助②	講義・GW	
	まとめ		
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院		参考書： 新看護観察のキーポイントシリーズ 在宅看護 中央法規 関連図で理解する在宅看護過程 メヂカルフレンド社 ナースのためのやさしくわかる訪問看護 ナツメ社 見てできる臨床ケア図鑑 在宅看護ビジュアルナーシング 学研	
評価の方法： 筆記試験、提出物の提出状況・内容、グループワークでの参加・貢献度、出席状況を総合的に評価する			

授業科目	在宅看護実践論Ⅲ	年	2年次	単位	1単位	担当	平野 朋子 実務経験 有
		次	後期	時間	15時間		

1. 到達目標

- 1) COPD 療養者の事例の看護過程を展開し、在宅での療養者とその家族に寄り添った看護実践への能力を養うことが出来る。

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	シラバスの説明 事例展開の進め方 地域関連図の書き方	講義・GW	
2	地域関連図を書く	GW	
3	事例紹介 情報の整理、解釈、分析	講義 個人ワーク	
4	全体像の把握、看護上の問題、看護方針	個人ワーク	
5	関連図の書き方	講義	
6	関連図を書く	個人ワーク	
7	看護計画の説明 看護計画の立案	講義 個人ワーク	
8	看護計画の立案	個人ワーク	
使用テキスト： 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院		参考書：	
評価の方法： 筆記試験、提出物の提出状況・内容、グループワークでの参加・貢献度、出席状況を総合的に評価する			

授業科目	看護の統合と実践概論	年	2年次	単位	1単位	担当	西浦 聡子 高田 勝子 実務経験 有
		次	後期	時間	30時間		

1. 到達目標

- 1) チーム医療及び多職種との共同の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。
- 2) 看護をマネジメントできる基礎能力を養い、看護業務を行う一員としての役割や責任について理解する。
- 3) 国際社会における保健医療福祉の実情を知り、国際協力について考える。

授業回数	授業内容	授業方法	備考
1	看護とマネジメント 看護管理学とは	講義	
2	看護ケアのマネジメント 安全管理 看護職の機能	講義	
3	看護ケアのマネジメント 安全管理 チーム医療	講義	
4	看護ケアのマネジメント 看護業務の実践	講義	
5	看護キャリアマネジメント 看護サービスのマネジメント	講義	
6	看護サービスのマネジメント 提供の仕組み作り・人材のマネジメント	講義	
7	看護サービスのマネジメント 施設・設備環境・サービスの評価	講義	
8	マネジメントに必要な知識と技術	講義	
9	看護を取り巻く諸制度	講義	
10	看護管理のまとめ・国試問題	講義	
11	国際看護学とは	講義	
12	国際協力機関の役割・ジェンダー	講義	
13	リクロダクティブヘルス/ライツ	講義	
14	感染症・貧困・衛生・外国人看護師との協働	GW	
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 看護の統合と実践3 災害看護・国際看護 医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院		参考書：	
評価の方法： 出席状況 授業参加状況 終講試験			

授 業 科 目	看護の統合と実践論 I	年	2 年次	単 位	1 単位	担 当	大森 かほり 各教員 実務経験 有
		次	前・後期	時 間	30 時間		

1. 到達目標

- 1) 既習内容をより臨床に近い形で学習し、知識・技術を統合する能力を習得する。
- 2) チーム医療におけるメンバーシップ及びリーダーシップについて理解する。
- 3) 複数の患者に対し、個別性及び優先順位を考慮した援助が実施できる。

授業回数	授 業 内 容	授業方法	備考
1	オリエンテーション・事例紹介・記録用紙の配布 グループ間で4事例の読み合わせ	講義・GW	
2	事例の理解・事前学習	講義・GW	
3	看護過程の展開	講義・GW	
4	看護過程の展開	GW	
5	看護過程の展開	GW	
6	発表準備	GW	
7	発表準備	講義・GW	
8	看護技術試験に向けての技術研修	GW	
9	看護技術試験に向けての技術研修	GW	
10	看護技術試験に向けての技術研修	GW	
11	看護技術試験	演習	
12	看護技術試験	演習	
13	看護技術試験	演習	
14	看護技術試験	演習	
15	看護技術発表会	演習	
使用テキスト： 系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ メヂカルフレンド社 (他、各自事前学習に必要な教科書)		参考書： 授業時必要に応じて紹介する	
評価の方法： 出席状況 授業参加状況 課題レポート 実技試験			

授 業 科 目	看護の統合と実践論II	年	2年次	単 位	1単位	担 当	中村 直晶 大池 秀子 実務経験 有
		次	前・後期	時 間	30時間		

1. 到達目標

- 1) 既習内容をより臨床に近い形で学習し、知識・技術を統合する能力を習得する。
- 2) チーム医療におけるメンバーシップ及びリーダーシップについて理解する。
- 3) 複数の患者に対し、個別性及び優先順位を考慮した援助が実施できる。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	総論・感染防止について	講義	
2	環境整備について	講義	
3	転倒について	講義	
4	清潔について	講義	
5	食事について 経管栄養について	講義	
6	注射について	講義	
7	報告・個人情報について ヒヤリハットも含む	講義	
8	災害の定義	講義	
9	災害の自助・災害の死亡原因	講義	
10	災害サイクルについて	講義	
11	災害サイクル各期の役割について	講義	
12	トリアージについて	講義	
13	実際の現場活動	講義	
14	終講試験	講義	
15	終講試験		
使用テキスト： 系統看護学講座 看護の統合と実践3 災害看護・国際看護 医学書院 系統看護学講座 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院		参考書： 授業時必要に応じて紹介する	
評価の方法： 出席状況 授業参加状況 課題レポート 終講試験			

授 業 科 目	看護の統合と実践論Ⅲ	年	3年次	単 位	1単位	担 当	平野 朋子 各教員 実務経験 有
		次	前・後期	時 間	15時間		

1. 到達目標

- 1) 既習内容をより臨床に近い形で学習し、知識・技術を統合する能力を習得する。
- 2) チーム医療におけるメンバーシップ及びリーダーシップについて理解する。
- 3) 複数の患者に対し、個別性及び優先順位を考慮した援助が実施できる。

授 業 回 数	授 業 内 容	授 業 方 法	備 考
1	ケーススタディに取り組む目的	講義	
2	ケーススタディのプロセス	講義	
3	ケーススタディのまとめ方（論文の構成）	講義	
4	ケーススタディの実施	講義	
5	論文作成	講義	
6	論文作成	講義	
7	論文作成	講義	
8	クラスで発表	講義	
使用テキスト： 楽しくなる看護研究 メヂカルフレンド社 黒田裕子の看護研究 医学書院		参考書： 授業時必要に応じて紹介する	
評価の方法： 出席状況 研究報告書など			

2020年度 学校関係者評価報告書

評価対象期間 自 2020年4月1日
至 2021年3月31日

評価基準日 2021年4月1日

学校法人栗岡学園
阪奈中央看護専門学校

学校関係者評価 評価委員

(敬称略・五十音順)

委員長 米澤 泰司

委員 大原 敏敬

委員 川原 勲

委員 酒井 真紀

委員 谷川 優香

委員 前原 園代

委員 宮野 博

評価項目の達成および取組状況

1 教育

2 施設・設備

3 学生サービス

4 教育面などでの特筆すべき取り組み

自己評価回答責任者

副校長 青木 千鶴香

看護学科教務主任 大池 秀子

准看護科教務主任 末廣 則子

教育分野 看護

1 教 育

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. カリキュラムは貴校の教育目標をどのように反映していますか	<p>○教育理念、教育目標を土台とし、教育目標を示し、カリキュラム構成を行っている。また、教員への周知を行っている。</p> <p>○カリキュラム改正に向けて、より明確な准看護師の位置付けを、各実習目標に活かしている。</p>	<p>○機会があるごとに、勉強会に参加している。</p> <p>○現状の問題を明確にし、カリキュラム改正に向けて検討を重ねている。</p> <p>○更に、准看護師教育の意義を内外に知らしめる必要がある。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○</p>	<p>○カリキュラム改正について、引き続き教務会等で検討していく。</p> <p>○教員に対しても更なる教育目標の理解・共有を図る。</p>	<p>●准看護師として活躍できるように、考慮されたカリキュラムを実践している。</p> <p>●カリキュラム改正に向けて、臨機応変に対応できるように、普段より学校全体としてコンセンサスを持った教育的取り組みが必要だと思えます。</p>
2. カリキュラムに卒後の職場のニーズをどのように反映していますか	<p>○新型コロナウイルスの影響で臨地実習に行くことができず、学内での実習を行った。</p> <p>○学内実習が増えたため、新たにDVDを購入していただいた。</p> <p>○引き続き、准看護師の職場ニーズの把握に努めているが、3月まで決定に至らない場合もある。</p>	<p>○卒後研修に時間を要するのでは。</p> <p>○引き続き、准看護師の働き方や病院での位置付けを明確にし、学生に対しても理解を求める取り組みが必要となる。</p> <p>○2020年度は進学率が50%以上となった。更なる学習を求め、本校と姉妹校の特典などをうまく利用し、進学する学生が増えている。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○</p>	<p>○卒業後に就職した職場と連携を取りながら、卒後研修にも協力したい。</p> <p>○引き続き准看護科の学生には、看護師の資格取得を勧めていく。</p> <p>○准看護科のカリキュラムに看護過程が含まれず、就職が限定される場合がある。引き続き関連病院と話し合いをしていく必要がある。</p>	<p>●現場では看護師へのニーズが強いため、進学率向上に向けて学生の理解を深めていただきたい。</p> <p>●就職先により求められるニーズは様々であるため、そのニーズを学生のうちに知っていく必要があります。卒業生等にも協力を得られると良いと思えます。</p> <p>●コロナ禍の中での対応、様々な面で工夫が必要でしたけれども、我々多くの教職員も学ぶべき点が多く、成長させられたのではないかと思います。</p>
3. 授業科目の学年進行や時間配分は適切ですか	<p>○新型コロナウイルスへの対応でカリキュラムの大幅変更を余儀なくされた。</p>	<p>○休校やリモート講義・課題講義などがあり予定通りには進まなかったが、調整し年度内に授業を収めることができた。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○</p>	<p>○感染状況の変化があっても柔軟に対応できるよう調整したい。</p> <p>○今後も引き続き、進度調整と講師依頼の時期なども検討していく。</p>	<p>●コロナ感染予防のためリモートでの講義など変更を余儀なくされたが、教員の先生方の努力でカリキュラムを終了できた。</p>

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
4. シラバス(授業要項)を作成していますか(内容は適切ですか)	○作成している。内容も、教員・学生双方が分かるように明示しているが、未だすべての配布には至っていない。 ○授業内容は学生便覧に明記している。	○成人看護学についてはマトリックスを作成、見直しを図り活用している。 ○常勤教員の担当科目は年度ごとに見直しを行っているが、非常勤講師の担当科目についての見直しできていない。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○カリキュラム改正に合わせて内容を再検討し、学生への冊子配布につなげたい ○准看護科も学生への配布用冊子を引き続き作成中である	●非常勤講師にもシラバスの修正等、依頼していく必要がある。 ●教員、学生がより有意義に授業を進めていくためにシラバスを明示、また学生がいつでも確認できるように冊子を作成していく必要があると思います。 ●非常勤講師対象の説明会(様々な角度からの)が定期的には必要だと思います。
5. カリキュラムの見直し体制はどのようにしていますか	○引き続き、2022年度のカリキュラム改正に向けた計画を作成中である。 ○前後期終了時や問題提起があった場合などに、教務会議で時間数も含め見直しを行っている。	○教務会で見直しを行っている。 ○年度末に短時間で見直しを図っているため十分とは言えないが、授業担当者からの意見を取り入れている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○カリキュラム改訂を見据え、今後の動向や情報を元に、教務会議等で見直しを行っていく。	●年度当初より、次年度のカリキュラム改正に向けた計画を立て、年間を通して見直しを検討できる工夫が必要と思われる。 ●2022年度の改訂に向けて見直しを行っている。 ●年度末前よりじょおにカリキュラムについての話し合いを設ける会議等必要だと思います。
6. テキストや教材をどのような基準で採用していますか	○教育目標や教科の内容に合わせ、学生により分かりやすいと考えられるテキストを採択している。 ○講義での使いやすさや、講師との話し合いでも決定している。 ○学生の使用頻度の少ないテキストは削った。使用しないテキストの購入には至っていない。	○すべてのテキストが十分活用されているとは言えない。学生の経済的負担にも配慮して毎年精査している。 ○講義内容により、副読本の活用及び動画利用などの工夫をしている。	5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○	○2021年度より、電子テキストを導入する。 ○カリキュラム改訂や新刊本・改訂本など注意深く情報を得て、ICT教育も含め今後も教務会議等で見直しを行っていく。	●学生主体で使用頻度の高いものを使用している。できる会切り臨床に近い内容も考慮していくことが望ましい。 ●ICT導入で講義や実習の教育方略は転換期を迎えていると考える。今後も授業内容に最適な方略の検討と、スケジュールの調整をお願いしたい。 ●学生の現状とレベルが合致しているかどうかの確認を行っていくと共に、適宜テキストの変更を提案していく必要があると思います。 ●デジタル教材と講義テキストのバランスが非常に重要だと思われるが、教員間の意思統一、または意見交換も重要かも。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
7. 目標とする教育効果を踏まえて適切に成績評価を行っていますか	<p>○30時間を超える授業については、中間・終講の2回試験を行い、その都度合格まで再テスト等を行っている。</p> <p>○評価は終講試験だけでなく、課題や実技などを踏まえ、担当教員が認めた方法で行っている。</p> <p>○実習評価は評価表に沿って、教員及び実習指導者が合議して評価している。また、教務会でも討議し決定している。</p> <p>○准看護科実習においては、指導者評価と教員評価を照らし合わせ、点差が大きい場合は合議する。それ以外は平均値とする。</p>	<p>○中間に試験があることにより、学生に勉強の必要性を意識化させることが出来、退学・休学を最小限に抑えている。</p> <p>○実習施設の指導者により実習評価に差がみられることもある。実習評価の振り返りから、実習内容の精査が必要。</p> <p>○成績不良者に対しては、学生や保護者との面談機会を設けている。</p> <p>○成績不良者及び未成年者に対して、夏期休暇前に成績を保護者に連絡し、三者面談を実施している。家族の協力があることで、成績上昇がみられる場合も少なくない。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○</p>	<p>○成績評価について、ベースとなる学習を教員間でこなっていく。</p> <p>○均質的な実習評価を目指し、実習調整者を中心とした協議が必要である。</p> <p>○成績不良者及び未成年者に対しては、引き続き保護者との連携を図っていく。</p>	<p>●学生本人の主体性を持たせるだけでなく、保護者の協力を得られる仕組み作りがさらに必要だと思う。</p> <p>●学生が成績評価に不満とならないよう、適切な基準で行うことが望ましい。</p> <p>●コロナ禍において、実習期間の短縮や学内実習となることも考えられるため、いかにして実践に役立つ技術・知識・態度を身に付けるかが重要となってくる。</p> <p>●学生の苦手分野と教員の感じている教育すべき点に差が生じないように、教員間のみでなく学生との面談も定期的に行い、学習法を確立していくと良いと思います。</p> <p>●日常生活の乱れが成績不良に繋がりがやすく、これをどう改善していくか様々な工夫が必要だと思っています。</p>
8. 学生の理解度に応じて授業を柔軟に進めていますか	<p>○学生の理解度に合わせ、各教員が授業形態や授業方法を選択している。</p> <p>○担任と非常勤講師で、問題を早期解決すべく話し合いを行っている。</p> <p>○非常勤講師への授業アンケートの一部開示を行っている。</p> <p>○授業中の姿勢などで、関心を持っているかを判断している。</p>	<p>○学生アンケートに、一部の授業方法への不満が記載されていた。</p> <p>○臨地実習の指導などで、授業方法等について研究する時間がとれない。</p> <p>○基礎学力の差が大きく、学習習慣なども生活環境による違いが大きい。授業や試験の結果を受けて、早めに対処するようにしている。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ぶ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○</p>	<p>○研究授業や公開授業などを行い、教員間でも検討していく。</p> <p>○両学科とも、常勤教員へのアンケート開示を目指したい。</p>	<p>●専門学校教育・プロを目指した学びに対する理解をオリエンテーションなどを通して強化していく方が良いと思われる。</p> <p>●基礎学力が不足している学生の理解度を向上させるため、個別指導などでの学力向上を考慮することが望ましい。</p> <p>●引き続きアンケートを行い学生の理解度に合わせて講義内容を調整していくと良いと思います。</p> <p>●授業アンケートの開示に伴う、授業改革の取り組みを個々の先生方がどう展開していくか、重要な課題だと思っています。</p>

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
9. 学生の学力不足を補うための教育をとくに実施していますか	<p>○国家試験対策では、教員と学生による国家試験対策委員会が活動している。今年度も、コロナ禍においても例年の補習対策に加え、各学年委員会が自主的に決定し、対策を実行した。</p> <p>○入学前に事前学習テキストを配布し、入学後にテストを行っている。</p> <p>○資格試験対策においても、担任を中心に強化学習などの対策を行った。</p> <p>○成績不良者に対する夏期休暇中の補習、長期休暇中の課題学習を実施した。</p>	<p>○資格試験対策は良い結果をもたらしている。</p> <p>○国家試験対策委員会「ナースになるぞ委員会」を継続的に運営している。学生と教員が定期的に会を開き、クラスに持ち帰った国試対策を学年に応じて実施している。学生の主体的な国家試験対策が維持できている。</p> <p>○在学期間を、有意義に学習に集中する期間であることを学生に対して指導している。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○</p>	<p>○資格試験対策の効果をさらに向上させるべく、時期や方法について継続的に検討する。</p> <p>○実習と資格試験対策が関連していることを意識づけていく。</p> <p>○問題がある場合はその都度教務会で協議する。</p>	<p>●国家試験対応を学生のモチベーションを維持させ十分に行っている。</p> <p>●1年次よりグループ学習や時間外学習の時間を最大限活用しながら個別対応を積極的に実施していく必要があると思います。</p> <p>●5(十分)の自己評価でもOKだと思う位、健闘なされていると思います。</p>
10. マナー(喫煙指導などを含む)やしつけの教育や指導を行っていますか	<p>○体調管理など含め自分の事が自分でできるトレーニングが未だ不十分。実習では「報告・連絡・相談」が必要不可欠であり、そのための教育もしている。</p> <p>○担任を中心に、看護学生としてのマナーや身だしなみをその都度指導している。</p> <p>○学校理事長の方針で、学生のプライベートの部分までケアするようにしている。何かあったときに学生、家庭、学校の三者で話し合うようにしている。</p>	<p>○外部講師を招いてマナー研修を実施している。</p> <p>○家庭環境や成育歴により指導が必要な学生に対し、多くの時間を必要としている。</p> <p>○全教員が常時指導を行っているが、行動に変容のない学生もいる。</p> <p>○学内のみならず学外での行動についても指導が必要である。指摘があった場合すぐ対応している。</p>	<p>5 4 3 2 1 十 ふ 不 ← つ → 十 分 う 分 ○</p>	<p>○今後も、その都度指導していく。</p> <p>○マナー・倫理観の学習を深める必要がある。</p> <p>○学生指導の内容が複雑化しており、対応した教員のメンタル面でのフォローが必要である。</p>	<p>●ゆとり教育を受けてきた学生については、自分を優先する傾向が強く、なかなか他者理解が進まない場合もあり、最新のティーチング・コーチングのノウハウの理解も必要となっている。</p> <p>●医療職に必要な人格形成、マナーなど学習以外の面に尽力されている。引き続き行っていくことが必要である。</p>

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
11. 教育技術 (教育方法) の研修・研究 を実施して いますか	○夏休み等、限られた期間内での 研修に参加している。 ○一部、共同学習を取り入れている。 ○各教員に、専門領域に関する学 会や研修会への参加を呼び掛け、 年2回の研修会参加を促せた。だ が実習や講義等で研修に参加し にくい状況であり、研究も同様に 時間的余裕がなく実施できてい ない。	○人員が少なく、一人の教員に対 する役割が大きい。 ○個別指導に費やす時間が非常 に多い。それぞれの生活環境が大 きく影響してると考えられる。 ○新しい教育方法について学ぶ 機会があり、各教員積極的に取り 入れている。○研修に参加した教 員に、会議での報告や資料の回覧 等行ってもらっている。 ○実習指導での担当学生数が非 常に多く負担が大きいいためか、教 育方法について学ぶ姿勢が不足 している教員もいる。	5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 分 分 分 分 分 ← つ → う 分 ○	○教員の自己及び相互研 鑽のためにも、研修に参加 できるような体制作りが 必要。奈良県看護協会主催 の教員継続研修の受講を 進め、自己研鑽に務める。 ○教員が、カウンセリング など学生指導に活かすこ とのできる研修を受ける 必要がある。 ○研修会参加した教員に は、伝達講習を行ってら いたい。 ○実施している新しい教 育方法について、教員間 での共有、研修会参加を積 極的に進める。 ○教員同士で授業内容の 吟味・相談などを出来る環 境作りが必要。	●教職員間であまり時間を取ることが難しい ため、教職員の LINE グループを作り、情報 共有を図ることが良いと思う。(研修の資料 なども含む) ●限られた時間の中で研修等に参加されて いるが、指導等が多忙であるため、時間的余 裕がない現状である。研修等に参加していく システム作りが必要と考えられる。 ●Web でのオンライン研修なども増えており、 学会にも Web で参加できる機会もあるため、 それらもうまく活用しながら教員の学ぶ機会が 増えることを願います。 ●研修会后、伝達講習を教育のスキルアップ のため義務付けると良いと思います。
12. 学生による 授業評価を 実施し教育 改善に反映 しています か	○授業評価や卒業時アンケート を行い、その結果を受けて各教員 が授業内容や方法改善に取り組 んでいる。	○学校関係者評価において、授業 評価の充実が指摘されたが、未だ 非常勤講師に対して授業評価が 十分に生かされていない部分も ある。 ○教員自身は結果を受け次年度 に活かすよう、前向きに取り組 んでいる。検討を要する場合は教務 会で協議している	5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 分 分 分 分 分 ← つ → う 分 ○	○授業評価の内容につい て引き続き検討してい きたい。 ○実習だけでなく講義に おいても目標の到達レ ベルチェックを行い、終講試 験と併せて理解度の確認 をしていく。	●授業アンケート等から学生のニーズをくみ取 り、授業に取り入れている。 ●講義終了時に授業アンケートを実施したり、 小テストや確認問題の数を増やし、学生 の理解度をこまめに把握し教育改善に活か すと良いと思います。 ●評価、アンケートの中身において、教員に 対する「サクス」「アワード」など取り入れ、一 体感を形成することも必要。

【分野全般に係る委員からの指摘事項】

- カリキュラム改正前に学生への評価法や、学力不足の学生に対する対応等をしっかりと明確にし、実施していく必要があると思います。カリキュラム改正とともに、シラバスを作成すること、学生への提示、冊子を配布できるよう準備を進めることも今後必要になると思います。
- 新型コロナウイルス感染防止対策の観点より、教育現場も大きく変化し、新たな学習方法や新たな実習の方法、工夫を模索しての一年間だったと思われます。そんな中、手厚い心のケアをし学生たちに向き合われたようです。ITの活用、電子テキストの導入など進化した学習、感染防止をかかげた実習へとステップしていくことを踏まえて、今まで以上の学生へのフォロー体制が要されるかと思われます。
- 項目（10.11）は、困難なテーマを多岐に渡って含んでいると思われます。教科を教えることだけが教員の時代ではなくなってきたことは事実ですが、生徒指導もカウンセリングも高度なテクニカルと人間性が求められるのも現実です。だからこそ、成果主義にとらわれるのではなく、地道に継続していくしかないと思います。

2 施設・設備

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. 教室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	○設置基準に基づいている。 ○面談スペースが少なく、利用希望が重なることがある。 ○机・椅子の老朽化。	○1階の障がい者トイレを多目的トイレとした。 ○学生更衣室に冷暖房を設置いただいた。 ○校舎の建設後、定期的なメンテナンスがなされていないため設備等に不具合が生じ始めている。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○設備などの計画的なメンテナンスや新規購入を進めたい。 ○体格の良い学生向けに、大きいサイズの椅子と机を準備したい。 ○学生へのトイレ掃除の指導が難しい。 ○自転車置き場に屋根を設置したい	●備品等の老朽化に対して計画的に補充やメンテナンスを実施していく必要がある。
2. 図書室を設け蔵書を適切に揃えていますか(有効に活用されていますか)	○放課後の自主学習など学生の活用度は高い。 ○図書は専門分野ごとにある程度充実しているが、古いものも多い。 ○卒業生がよく学校に来る。関連病院の看護師の方も、研究発表の資料作りで来校される。 ○昨年度より、図書貸出しシステムを刷新した。	○学生や卒業生が使用しやすい環境である。 ○所在不明な図書が出ないよう、書庫を時間利用としている。 ○図書室の本を検索して、ケーススタディや実習のまとめ発表に活用している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○新書の購入の推進 ○図書室のパソコンの活用	●新刊など積極的に購入して学習意欲を高めることが望ましい。 ●図書室でパソコン使用を行えることで、文献探し等効率よくできますので、導入していける方向で環境設定を行うと良いと思います。 ●図書室の概念も今後は変化していくと思います。デジタル化され、ICTの基地的な様相のイメージが必要かも。
3. 実習・実験室の数や広さ、附帯設備は適切ですか	○基準に規定された通りで適切である。年に1回実習室の備品点検を行っている。	○必要に応じ、物品購入を行っているが、18年目を迎え、買い替えが必要となってきている。 ○タオル・シーツ・寝衣などの汚れ・破れが目立つ。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○段階を追って、新規購入が必要。 ○備品点検時に備え、新規物品購入時に、番号と年月日を入れる。	●計画的な備品購入を検討してください。

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
4. 最新機能を備えた視聴覚機器や情報機器は足りていますか(有効に活用していますか)	○教務室のパソコンの不具合による時間的ロスが大きい。 ○教員個人所有のパソコンに委ねている現状がある。 ○各教室の情報機器も古くなり、故障やトラブルがある。	○パソコン室のプリンターが1台しかなく、授業等で支障をきたしている。 ○ソフトウェアのバージョンが古く、DVD視聴やPowerPointの読み込みに難がある。 ○プロジェクターのない教室があり、セッティングに手間と時間を要する。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○担当の教員の要望などを踏まえて、対応していきたい。 ○常に最新の状態を保てるよう、定期的に点検していきたい。	●今後はデジタルを活用した教育がさらに必要となるため、機器の整備は可能な限り、計画的に取り揃えていくのが良いと思う。 ●OA 機器が不十分であり、環境を改善していくことが望ましい。
5. ニーズに応じた学生寮を保有していますか(有効に活用されていますか)	○学園の学生寮が新たに設置され、学生の入寮が可能である。新しい寮への入寮者は現在のところいない。 ○関連施設の職員寮を数名が利用している。	○すでに入居している学生は、管理規則を遵守している。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○寮生への管理規則遵守を徹底する。	●学生寮を所有している。問題なし
6. 体育館や運動場などを保有していますか(有効に活用されていますか)	○関連施設の体育館を年に数回授業で利用している。	○関連施設のバスで送迎していただけるため、利用しやすい。	5 4 3 2 1 + ふ 不 ← つ → + 分 う 分 ○	○今後も積極的に体育館を使用していきたい。	●関連施設の体育館、運動場を使用している。

【分野全般に係る委員からの指摘事項】

- 施設設備については、備品の老朽化等が目立つため、可能な限り新しい物へ変えていく必要があると思います。
- IT 機器が必要とされる時代、設備の充実により教育や学生のモチベーション、学習意欲が向上すると思います。
- 違和感を持たれるかもしれませんが、一言でいうと「従来の学校らしくない学校の環境づくり」の視点から設備面での工夫を積み上げていく、少し遊び心も取り入れてみることも楽しいかも。

3 学生サービス

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
1. クラス担任制をとり修学に問題のある学生に対して適切な対応を行っていますか	<p>○担任1名、副担任1-2名で学生指導を行い、問題がある学生については教務会議で協議している。</p> <p>○必要な場合は教務主任が保護者と連絡を取り、情報交換をしている。</p> <p>○教員数は指定基準を満たすものの、学生指導を円滑に行うには不足しており、担任1名、副担任は2学年で1名となる。</p> <p>○放課後に学生からの相談が多くサービス残業となっている。話の性質上、複数回に渡ることが多い。</p>	<p>○准看護科は年齢層が高く、自主的に勉強できる学生が多い。18-20歳の学生は、こちらから働きかけないと学習が定着しない。</p> <p>○准看教育に興味を持つ人の確保が非常に困難である。</p> <p>○残業により身体的、精神的な負担が大きい、教員数不足のため勤務の交代やフレックス勤務ができない。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十</p> <p>← つ →</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○様々な課題を抱えた学生が多いため、担任に限らず誰もが学生に関わり共有する必要がある。</p> <p>○指導が必要な学生の増加で教員の対応時間が長くなるため、他の業務に支障をきたさないよう業務分担が必要。その際、担任の役割・考え方を共有することが大切である。</p>	<p>●役割をさらに整理し、パートの様な補助スタッフなども採用して、負担軽減を図ることが望ましい。</p> <p>●担任制をとり学生に対応しているが、多様な課題を抱えた学生もいるため、対応に時間と労力が必要であり、教員に負担がかかっている。</p> <p>●問題が生じた場合は、担任のみでなく他教員や保護者も含めた包括的な取り組みが行える体制を整えた必要があると思います。</p>
2. 学生に対してカウンセリング(心理相談)を行っていますか	<p>○教員が学生と個別に対応していることもあるが、公認心理師と連携を取り、相談しながら対応している。必要時、公認心理師と定期面談も行ってもらう。</p>	<p>○公認心理師が授業も担当してくださっており、学生にとっては安心できる環境である。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十</p> <p>← つ →</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○カウンセラーの常駐が(少なくとも週2回)望ましい。</p>	<p>●希望があれば公認心理士のカウンセリングを受けることが可能。</p> <p>●教員の負担軽減のためにもカウンセラーを常駐してもらうよう手配が必要であると思います。</p>
3. 教室以外に休憩スペースが適当に置かれていますか	<p>○グループワークや自習のスペースが不足している。</p> <p>○新型コロナウイルスへの感染対策で密を避けるため、椅子の数を半分にしている。</p>	<p>○休憩時間、ラウンジに3クラス重なると狭い。</p> <p>○歓談できるスペースが少ない。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十</p> <p>← つ →</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○スペースに限りがあるため、効率の良いラウンジの使い方を引き続き検討する。</p>	<p>●ラウンジがあるが密になる可能性がある。</p>
4. 食事場所や売店などのスペースが設けられていますか	<p>○弁当屋、パン屋の販売があり、学生は教室で食事をとっている。売店はない。</p> <p>○今年度、食事は教室内で、無言で前を向き、アクリル板を付けて取るよう指導している。</p>	<p>○弁当やパンの販売は好評で、学生もよく利用している。</p>	<p>5 4 3 2 1</p> <p>十 十 十</p> <p>← つ →</p> <p>分 う 分</p> <p>○</p>	<p>○関連病院の食堂利用についても引き続き検討したい。</p>	<p>●興国高校でも自前で「黙食」のポスターを作成して、職員室、教室、食堂に掲示しています。</p>

項目	どのような現状ですか	良好な点あるいは問題点	5段階の自己評価	今後の向上・改善策	委員からの指摘事項
5. 学校独自に奨学金や特待生制度を行っているか	○関連医療法人の奨学金制度があり、学年にもよるが1クラス3～6人程度が利用している。	○給付型奨学金の要件や採用決定時期が厳しく、関連施設への就職に繋がらない恐れがある。	5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← 十 → 分 十 分 ○	○完全給付型奨学金制度への変更が望まれる。	●関連法人の奨学金の制度があり、利用者も多い。
6. その他	○京阪寝屋川市駅からJR忍ヶ丘駅経由で、学園の無料スクールバスが運行されている。	○最寄駅である近鉄生駒駅からのスクールバスがない。	5 4 3 2 1 十 十 十 十 十 ← 十 → 分 十 分 ○	○近鉄生駒駅からのスクールバスを検討していく。	
【分野全般に係る委員からの指摘事項】					

4 教育面などでの特筆すべき取り組み（自由記入）

<p>※学内においてこれまで記入したこと以外に、教育、施設・設備、学生サービス面での特筆すべき取り組みがあれば記入ください。</p> <p>○看護教育における頭作りとともに技術教育にも力を入れ、「気持ちの良い看護」が提供できるよう引き続き学び、学生に伝えていきたい。</p> <p>○新型コロナウイルス対策においては、検温・行動記録・手洗い・マスクとゴーグル・アクリル板の設置・食事のとり方、掃除の方法・教室内や机、椅子等の消毒など、多岐に渡る対策を毎日行っている。</p> <p>○新型コロナウイルス対策を踏まえつつ、臨地実習施設や県と相談を行い、意識と技術の高い学生を育てていきたい。</p> <p>○2022年度のカリキュラム改正に向けて、見直しを行っている。教育理念や教育目標、卒業時の到達目標、看護師教育の技術項目と卒業時の到達度など、全教員が参加して検討している。ここから、授業科目に関わる教育の姿勢も変化するのではないかと考えている。</p> <p>○一人でも多く関連病院に就職してもらいたい。引き続き医療法人和幸会と学校法人栗岡学園が連携し、目的が達成できるよう協力していきたい。</p> <p>○昨年同様、和幸会とは、図書室の開放、診療用具・実習室の貸借において協力、関連施設合同会議などで情報交換を行っている。</p> <p>○少子化の影響もあり、入学志願者が減少している。学校の強み・弱みを再度検討し、魅力ある専門学校作りをしていかなければならない。</p> <p>○業務内容・看護技術・学生に関すること等について、教員同士が連携し、互いの質を高めていきたい。</p> <p>○より時代に合った学校整備（自転車置き場の屋根など）を検討していく必要がある。</p> <p>【分野全般に係る委員からの指摘事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●昨年度の新生児が約87万人と、現在より16万人程度減少することを踏まえ、職業実践専門課程の認定も視野に入れ、専門実践教育訓練の認定も考えるべきではないか。これにより、社会人のリカレントニーズの取り込みも可能となり、かつ、社会人が入学することで新卒学生の人間教育にも好影響が期待できると思う。 ●入学志願者増加の為、貴校の特色を説明会やSNSを利用し全面的にアピールしていく必要があると思います。カリキュラム改正にむけたシラバス作成の準備等は早急に行い、臨機応変な対応が必要です。そのため、現時点でのシラバス内容の見直しを教員、必要であれば卒業生にも意見をいただき改善していく必要があると思います。 ●看護師の育成にあたって、知識のみならず、対象者に寄り添う心、心地よいケアなどを掲げておられます。どの時代、どんな境遇があろうとも、臨機応変に対応する力、柔軟な発想で様々な危機的状況を乗り越える看護師を育てていただきたいです。よろしくお祈りします。 ●自己評価の内容が、それぞれの項目において的確かつ具体的に非常に理解しやすく、精度が高いと思いました。今後の向上と改善においても期待させていただきたいと思います。
--